

西武文理大学  
研究シーズ集  
2022

**BUNRI**  
Research seeds collection



# CONTENTS

## 目次

ごあいさつ 学長メッセージ	2
サービスイノベーションセンター(SIC)	4
産学官・地域の連携事業の事例紹介	6
研究機関としての学部の特徴	8
研究シーズ2022 研究シーズの見方	9

### 企業・経営支援

浅石 梨沙	新製品・サービス開発の原価計算・管理会計	10
岩瀬 忠篤	経済社会の長期展望（人口とイノベーション）	11
金澤 良昭	マーケティング・コミュニケーション	11
甘泉 瑞応	サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム	12
黒崎 宗宏	実務・コンサルティング経験での知見の理論化研究	12
小玉 武生	小売業の競争戦略	13
齊藤 絵理子	メディアとコミュニケーション、人材とキャリア教育	13
高瀬 浩	顧客経験価値とマーケティング・デザインの研究	14
野口 佳一	時空間データの可視化やシミュレーション	14
馬場 哲也	ホテル事業の経営と運営の分離、ホテル資産の評価	15
藤野 洋	中小・ベンチャー企業、イノベーション、CSR・SDGs の研究	15
松澤 祐介	金融論 交通経済学 地域研究（ヨーロッパ）	16

### 医療・福祉専門職支援

伊藤 まゆみ	がん終末期ケアに関連したストレスに起因した成長	17
井上 寛隆	学生の小児看護の理解と技術習得にむけた教授方法	18
岡田 信子	多職種・多部門連携における看護師の役割に関する研究	18
小野 智恵美	乳房再建術を受ける患者の看護支援の検討	19
影山 優子	介護・福祉職員のキャリア形成・成長経験を支援する	19
神庭 純子	現代に活かすナイチンゲール看護論	20
小寺 栄子	看護職のキャリア開発、看護業務の生産性の向上	20
小松 妙子	在宅看護・訪問看護の発展	21
佐藤 智子	基礎看護技術の学習と看護観の形成に関する支援	21
鈴木 浩美	外国人医療人材への支援プログラムの構築 ー外国人技能実習制度の活用に向けてー	22
関根 みぎわ	周手術期看護に関する研究、がん患者・家族支援の検討	22
大工原 慈仁	男性看護師のGSEに影響を及ぼす要因とキャリア形成	23
中澤 美弥	潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討	23
原田 瞳	精神看護学実習にて学生が患者の実像を捉えるプロセス	24
山田 秀樹	頭の働かせ方を理論的に解き明かして、課題解決を図る	24
横田 美佳	訪問看護と職業性ストレス、健康行動への関心と変容	25

## 教育・スポーツ・生涯学習

加藤 三彦	スポーツマインドを育成する	26
金子 章予	高等教育の哲学と実践方法 — 教養教育、市民性教育、生命倫理教育を中心として —	27
鈴木 政浩	英語授業学研究（学習者の英語運用能力を促進する授業実践の定式化）、 4技能の連動性と英語運用能力向上	27
瀬沼 文彰	現代社会のコミュニケーションと人間関係の研究	28
マルケス ペドロ	言語教育・言語学習におけるアイデンティティ形成	28
宮島 健次	ホスピタリティ教育 — AI時代に生き残る人とは	29

## 観光・まちづくり

遠藤 理一	占領期日本の復興過程と観光事業・観光旅行との関係	30
菅原 育子	長寿時代を生きる私たちの社会とのつながりと暮らし	31
田辺 忠史	地域社会における異文化共在	31
富樫 文予	ホテルのハード・ソフト・ヒューマン	32
徳田 行延	産学官連携プロジェクトで地域・社会の課題を解決する	32
中谷 勇介	産業連関表を用いた地域経済の課題解決	33
服部 映里	持続可能な地方行政とまちづくり	33
服部 裕美子	観光インフラとしてのホスピタリティ&マナー教育の普及	34
望月 政志	地域資源を活用した地域振興に関する研究	34

## 子育て・障害者支援

飯塚 ちひろ	子育て・子育て支援を担う専門職の役割に関する研究	35
石川 幸代	精神障がいをもつ人が地域で生活するための包括的な支援について	36
大賀 明子	父親と育児に関する研究、産後ケアに関する研究	36
奥山 陽子	高齢難聴患者を支援するためのピアサポート研修の開発	37
笠井 翔太	精神科看護師のキャリア形成、オープンダイアログ	37
柏木 由美	母乳育児を中心とした歴史的変遷に関する研究	38
川口 真実	障害福祉事業所における人事考課の課題について	38
倉石 佳織	疾患や障がいを抱える子どもとその家族への支援に関する研究	39
長坂 桂子	高度実践看護の追究	39
茂手木 明美	子育て支援に関する研究、子どもの生活習慣と健康	40

## 健康づくり

荒木 美千子	高齢者が病いや障害とともに生きる意味	41
伊藤 千春	労働者のストレスマネジメント、レジリエンス向上	42
井原 緑	脳卒中患者の自主トレーニング実施に関連する要因	42
尾崎 美恵子	健康の視点から誰もが安心して暮らせる地域づくりを考える	43
齊藤 美恵	「生活世界に導かれたケア」の可能性	43
藤本 千尋	成人期における全人的看護の研究	44
山岡 栄里	訪問看護師の介護者支援と在宅療養継続の関連	44

産学官連携の推進	46
共同研究等の推進／お問い合わせ先	47
INDEX 研究シーズ名前検索	48

# 西武文理大学は地域への貢献を加速します

——〈ホスピタリティ教育の学府〉として、創立25周年に向けて——

本学は2024年に創立25周年を迎えます。さらに、その翌年の2025年には、本学もその一員である文理佐藤学園が創立60周年を迎えます。このような学園ならびに本学がこの狭山の地に広大なキャンパスを確保できているのは、地元の方々のご好意の賜物であると、創立者・理事長の佐藤英樹から聞いております。

この経緯を鑑みると、さらに創立以来、ホスピタリティの精神をモットーとし、英語表記ではBunri University of Hospitalityと称して、〈ホスピタリティ教育の学府〉を自任している本学でありますから、地域に対して、とりわけ狭山市を中心とする埼玉県西部地域に対して、できるかぎりの貢献をすることは、当然の責務と認識しております。

2016年には狭山市と連携に関する基本協定を締結して、本学はサービス経営学部と看護学部のもつ力とリソースをもって、狭山市におけるさまざまな分野と場面で協力させていただいてきております。さらに昨2021年10月20日には、埼玉県物産観光協会と包括連携協定を締結させていただきました。埼玉県内には数多くの大学が存在するなかで、本学を最初の産学連携協定の相手として同協会が選んでくださったことは、大変にありがたいことと、全学をあげて受け止めております。また、このことによって本学の地域貢献へのモチベーションはさらに強化されております。

皆様ご承知のように、本学は2019年に創立20周年を記念してサービスイノベーションセンター（SIC）を開設し、産学官連携において幅広い活動を展開しております。例えば、長野県の飯山市と基本協定を結んで、現地での交流事業や本学学園祭での観光物産展などを、学生たちが中心になって実施してきております。

その流れの中で本学は、来たる創立25周年の時を視野に入れながら、「西武文理大学」という名前が示しているとおりに、武蔵の国の西部地域に対して、人材育成はもとより、委託研究や共同研究によって、さらに貢献していこう、と改めて決意を新たにしているところであります。

## 技術と人間の価値観

ところで、近年の科学技術の進歩の目覚ましさは、皆様ご承知のとおりです。例えば、その最先端たるAI（人工知能）の技術は、人間になりかわって、か



西武文理大学 学長 やまき かずひこ 八巻 和彦

つ、人間よりも正確に、かつ人間とは違って疲れることを知らずに一つの事を遂行しうるということを、われわれに見せてくれます。そのこと自体は、それが善い目的のために使われるのであれば、とても素晴らしいことです。

ところが、同じ技術が邪悪な目的のために活用されると、人類がこれまでに経験したことのない悲惨な状況がいとたやすく生み出されます。その典型的な例を、今われわれは各種のメディアを通じてウクライナに対するロシアの軍事攻撃において目のあたりにしています——個々の情報の信頼性については注意を要しますが、人々が平穏な暮らしを営む家庭がたくさん入っていた高層建築物が、いとたやすく破壊されて、見るも無残な廃墟となっています。そのみならず、そこで暮らしていた無辜の人々の命が虫けらのように奪われています。もし高度に発達した現代の技術

がなかったら、これほどの惨事が起こることはなかったでしょう。

技術と言いつつAIと言いつつ、それらがどのように機能するのかというプログラムは、結局は人間が設計しているのです。その点で人間の精神的な要素、価値観が極めて重要な役割を果たします。人間たるわれわれは、どのような心と意をもって他の人々を見るのか、自分以外の人と接するのが、問われるわけです。

最近、人型ロボット研究の世界的権威の一人とされている人が書いた本を読みました。哲学を専門としてきた私から見ると、著者の人間観が一面的であるように思われました。われわれの目先の便利さや欲しい物事を追い求めることだけが人間の生きている目的であると捉えているようで、それをロボットが次々と実現しつつあると説明していました。そして最終的には、人は自分の脳に電極を貼り付けて、念じるだけで現在の人間では不可能なことを容易に実行できるようになる、と彼はその本を締めくくっています。

人の為に開発されているロボットののはずなのに、逆に人間がロボット化するという未来は、本当にわれわれが望んでいることでしょうか。もちろん現代の技術によって、たとえばAIによって代替してもいいことはどんどん代替することで、われわれの時間とエネルギーを節約して、その結果生まれるゆとりを自分たちの本来やりたいことに活用できるようになる、ということはとても素晴らしいことです。しかし、技術的に実現できたことならばその全てをあらゆる人間の生活の場面に導入し続けていいのか、私たちは落ち着いて考える必要があるのです。

## SDGsとホスピタリティ

今、私たちが落ち着いて考える必要があることは、これに限らず、われわれの暮らし方のほぼ全域に存在しています。それは2015年に国連総会で定められたSDGs（持続可能な開発目標）が示しています。SDGsについては、政府のみならず経団連も「経団連SDGs特設サイト」を開いていますから、今や日本の社会でも理解が広まっていますが、そもそもこのSDGsが設定されることになった背景には、現代の文明に生きるわれわれが、意図するか否かに関わらず陥っている、さまざまな行き詰まりという現実があります。

今は、これの詳細に立ち入ることは控えますが、SDGsの実現にもっとも重要な役割を果たすものは、

われわれ自身の心の持ち方であり、それを一言で表せば、語の本来の意味でのホスピタリティ（語源であるラテン語のHospitalitas）です。これは日本語の「おもてなし」とどまるものではありません。「見知らぬ人や他人を手厚くもてなす」という意味ですから、「敵」かも知れない人も「手厚くもてなす」ということになり、つまり、心をこめてあらゆる人をもてなすということになります。この点においてSDGsの実現を支える心構えになりうるものです。

我田引水が過ぎると言われるかも知れませんが、この意味でのホスピタリティを、西武文理大学は開学以来モットーとしてきています。つまり、時代がようやく西武文理大学の理念に追いついて来たわけですから、

## 本学のシーズを果実に

ですから、この『研究シーズ集』に登場しているサービス経営学部と看護学部の教職員は、この本来の意味でのホスピタリティ精神にあふれています。ぜひご遠慮なく、ご提案やご相談を持ちかけてください。全教職員が各自、以下のページに記されているような自分の専門的な知識と能力をもって、よろこんで前向きにお応えするに違いありません。そして、その種子から大輪の花が咲き大きな実を結ぶことになれば、それはとても素晴らしいことです。

皆様のお声かけによって本学が地域のために貢献できるならば、それはわれわれにとって、この上ない大きな喜びです。このような連携が成立することは、それ自体、本学を強力に支援して下さることにもなります。学長として心よりご支援をお願いする次第です。

## 経歴／学長プロフィール

1947年山梨県に生まれる。早稲田大学第一文学部哲学科を卒業した後、東京教育大学大学院修士課程を修了。引き続き同大学大学院博士課程に進み、1976年に同課程を中退して和歌山大学の教員となる。1990年に早稲田大学に移り、1992年に教授。2018年3月に同大学を定年退職。この間に早稲田大学広報室長、早稲田中学高等学校校長等も務める。2018年4月に桐朋学園大学特任教授(2022年3月まで)および早稲田大学名誉教授となる。専門はヨーロッパ中世の哲学、とくに15世紀の思想家であるニコラウス・クザーヌス。1986年より88年までフンボルト財団研究奨励学生としてドイツのトリア大学に研究滞在、1998年より2000年まで早稲田大学在外研究員としてドイツのボン大学に研究滞在。著書に、『クザーヌス 生きている中世』（ぶねうま舎2017年）、『Anregung und Übung』(Aschendorff Verlag, Deutschland, 2017年)、『クザーヌスの思索のプリズム』（知泉書館2019年）等。

## サービスイノベーションセンター長ごあいさつ

サービスイノベーションセンター（SIC）は、2019年度に開設され、今年度で4年目を迎えました。SICでは、地域の知の拠点として、研究シーズをもとにした産学官の連携や地域への貢献をその柱に掲げています。昨年度は、サービスイノベーションフォーラム「中小企業のためのSDGs（持続可能な開発目標）の意義」や埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）と連携したオンライン講座「『地域と共に歩むTJUP』～『農』を通じて地域をつくる～」などを開催しました。

また、「誰もが安心して暮らせる地域づくりのヒント」を統一テーマとして、外部の有識者による基調講演等、全3回の市民公開講座をオンラインで開催しました。

調査研究活動としては、コロナ禍における事業システムの再構築に関する研究など、いくつかの研究プロジェクトを引き続き推進しています。

また、「総合演習Ⅰ（産学連携PBL）」や「サー

ビスラーニング（地域イベント・ボランティア）」などの授業では、学生が地元企業の課題の対策を考えたり、地元の様々なイベントに積極的に参加したりしています。昨年7月には東京2020オリンピックの聖火リレーのコース上の商店街に学生が制作した「やらい」を出展し、地元がゴルフ競技の会場となったオリンピックに大学として協力しました。

この研究シーズ集は、本学の教員の研究や活動を紹介したものです。研究シーズ集が地域産業における新たなイノベーションや地域活性化につながるきっかけとなれば幸いです。



サービスイノベーションセンター  
センター長

藤野 洋

## 目的

本センターは、本学の産学官連携活動を推進し、ニュービジネスの創造支援と学内外の起業家育成の取組を通じて、本学の研究の発展を図るとともに、学園並びに地域のイノベーション人材の育成に寄与することを目的としています。

## 業務

本センターでは、次に掲げる業務を行っています。

- 【1】 産学官連携事業の企画と管理運営に関すること
- 【2】 起業家の育成とニュービジネスの創造支援に関すること
- 【3】 受託研究及び共同研究の調整と契約に関すること
- 【4】 知的財産の管理に関すること
- 【5】 研究活動の広報に関すること
- 【6】 イノベーション人材育成に係る高大連携に関すること
- 【7】 その他地域連携に関すること

# サービスイノベーションセンターの主な活動

2021

01

## 地域の中小企業にSDGsの意義を発信

サービスイノベーションフォーラム「中小企業のためのSDGs(持続可能な開発目標)の意義」を狭山市と狭山商工会議所に後援をいただき開催しました。

SDGsは、2015年に国連で採択された環境・社会・経済の持続可能性向上を目指す国際目標ですが、中小企業にはその意義が必ずしも浸透していません。そこで、フォーラムでSDGsの意義を地域の中小企業に発信しました。

本学教員の基調講演に続いて、市内企業2社へのインタビュー、内閣総理大臣表彰を受けた先進的な企業からの事例報告、そして、先進企業の経営者と狭山市ビジネスサポートセンターのセンター長にご登壇いただいたディスカッションを実施しました。これらすべての動画を収録し、ネット配信をするともに狭山ケーブルテレビでの放送をしました。

02

## シンサヤママーケットに参加

本学の最寄り駅である新狭山駅の北口商店街で開催された「シンサヤママーケット」にサービス経営学部の学生14名が参加しました。

参加学生は、授業の体験実習科目の一つ、「サービス・ラーニング(地域イベント・ボラティア)」の中で立ち上げたプロジェクトのメンバーです。

当日は、本学と包括連携協定を結んでいる長野県飯山市の物産販売ブースの出展と会場運営の一翼を担いました。物産販売では、学生が現地へ赴き飯山市名産のりんごと信州伝統野菜の「坂井芋」を生産者から直接仕入れ、来場者数や客層などを予想し価格と販売方法を考え見事に完売!また、飯山市の観光PRクイズなど趣向を凝らした内容も盛り込み、来場者から好評のうちに終了しました。

03

## 市民公開講座「誰もが安心して暮らせる地域づくりのヒント」2021年度事業

### 「注文をまちがえる料理店」の仕掛人と考える～人と地域を巻き込むプロジェクト～を開催

両学部の地域交流委員会とSICが協力し、市民公開講座「誰もが安心して暮らせる「地域づくりのヒント」をオンラインで開催しました。

本事業への取り組みは、2019年の大学創立20周年を機に学内の構想委員会で「誰でも安心して暮らせる地域づくり」というテーマが掲げられたのがきっかけです。それぞれの多様性を尊重しながら、多世代が緩やかに支え合う「誰もが安心して暮らせる地域づくり」のために何が必要なのか。この問題を皆さんとともに考え、仲間づくりの機会となるよう本講座を企画しました。

ご登壇いただいた8人のお話の中からは、たくさんの「地域づくりのヒント」を発見することができ、全3回の視聴者は延べ418人となりました。

#### 第1回 基調講演 講師：小国 士朗氏

一般社団法人注文をまちがえる料理店  
専務理事 元 NHK 番組ディレクター

#### 第2回 地域で活躍するあのヒトこのヒトが登場!

#### 第3回 西武文理大学で学ぶ学生4人が登場!

リアルにホンネで考える。



# 産学官・地域の連携事業の事例紹介

企業・経営支援

サービス経営学部 教授 甘泉 瑞応

## 企業の問題解決に学生のアイデアを生かす

「総合演習Ⅰ（産学連携 PBL）」では、地元企業が抱える具体的な課題を題材に学生が解決策を検討していくもので、昨年度は前期と後期に二つの活動を授業内で展開しました。

前期には、奈良県で多角化経営を進めている企業から課題を提供していただき取り組みました。具体的には、その企業の農園部が生産している高級柿のマーケティング戦略について、地域特

性や企業の持つリソースを活用したユニークな提案を行いました。また後期には、狭山市広報課プロモーション推進室と狭山ケーブルテレビの協力により、狭山市の魅力アップのための提案に取り組みました。学生は、狭山市の地域資源の調査や現地視察などを行い、若者の視線から様々な提案を行いました。

医療・福祉専門職支援

看護学部 教授 小松 妙子

## 教育・研究を実践につなぎ、地域の保健医療・福祉ケアの質向上へ

サービス経営学部及び看護学部では、教育や研究の成果を保健医療・福祉専門職の実践活動の質の向上に役立ててもらうため、専門職対象の公開講座や研修会の開催、地域の保健医療機関や看護協会等への講師派遣、近隣市町村の各種審議会委員としての参画を積極的に行っています。

各教員が専門性を発揮して、地域のニーズに

応じて様々な企業や訪問看護事業所等の地域活動の発展・活性化を支援しています。SDGs フォーラムの開催、看護管理者コース・看護教員養成講座・実習指導者講習会等の講師、臨床看護研究の支援、保健医療福祉職との協働研究への参画を通じて、地域の保健医療・福祉ケアの質向上に貢献しています。

教育・スポーツ・生涯学習

サービス経営学部 教授 加藤 三彦

## スポーツコミュニティセンターにおける活動

本学には、スポーツコミュニティセンター（SCC）があり、様々な目的のもと、事業・活動を行っています。その一つに、スポーツに関する教育・研究資源を活かして地域の活性化を図ろうと、学生・教員によるスポーツボランティア活動・スポーツ教室を開講しています。

「バスケットボール教室」・「ラクロス教室」を、本学の学生・教員が、地域の子どもたちに、スポー

ツの楽しさ・フェアプレイの心と行動などを教育・指導しています。

【バスケットボール教室】

2010年から「元気バスケットボール教室」として開講、本学指定強化部男子バスケットボール部が協力し、毎週木曜日に活動しています。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため休講していますが、教室再開の際は、埼玉県体育協会、日本バスケットボール協会のガイドラインに沿って管理・運営していきます。

【ラクロス教室】

2020年から「ラクロス体験教室」を、狭山市教育委員会が主催で行っています。本学 SCC が共催になり、本学指定強化部女子ラクロス部が協力し、安全と楽しさを両立させながら、運動やスポーツに親しむことの素養を身に付けることを目的に開催しています。



## 学生が創り出す新しい「体験」型ストーリー「サヤマ de シネマ」

今年で6年目の産学官連携映画上映会「サヤマ de シネマ」。私たちが目指すのはクラシカルな映画上映会ではない。映画はスマホで見ることのできる時代になっている。若者はデジタル世界とアナログな世界を自由に行き来しながら、デジタルで作り上げるイメージ世界と五感で感じるリアルなアナログ体験をマッチングさせながら新しい感性を紡ぎだしている。私たちがこだわるのはこ

の上映会を市民会館でやること。小さな観光地をつくり、映画でみんなが成長できる場を創ること。こうしたビジョンをもって今年も取り組んでいく。



## 子育てを支援する

思春期やプレコンセプション(妊娠前)ケアにはじまり、地域のお母さまや子育て支援にかかわる方を対象にした講演や研修会の講師や企画・監修が可能です。お母様が対象の講演ではこれまでに「母乳のお話」「母乳と母体の健康」の講師、「狭山で産後ケア！」バランスボールエクササイズで産後ケアでは共催・企画・運営を行いました。また一般向けの雑誌「たまごクラブ」などの記事や別

冊付録冊子の監修もしています。

子育て支援に関わる方が対象の研修では、子育て支援事業である訪問支援員キャリアアップ研修会などの実績があります。ホームスタート事業の運営委員や「産後ケアのリーフレット」監修をしています。



『後期たまごクラブ春号』  
(2022年4月発行)別冊付録  
(産ベネッセコーポレーション刊)

## 地域住民と協働する健康づくり

誰もが安心してくらせる地域のキーワードは「健康」です。看護学部では、開学当初から地域主催の様々な活動に教員と学生が参加し、地域住民と交流を深めながら健康づくりをサポートしています。2021年度はコロナ禍にあり、さやま市民大学との連携講座はオンライン開催となりました。また、地域の防災まちづくり対策として毎年行っている柏原小学校での防災教室は、感染拡大

予防に十分留意しながら学生と共に活動しました。これらの活動は、地域住民や関係する方々との相互理解を深めるだけでなく、地域の健康課題発見の機会となり、看護学部の地域で果たす役割への認識を高める機会ともなっています。



## 新たなサービスを デザインすることで 地域の発展に 貢献する



サービス経営学部 学部長 高瀬 浩

サービス経営学部は1999年4月に、日本ではじめて「サービス経営学」を研究・教育する大学として誕生し、2019年には創立20周年を迎えました。この20年、日本社会も大きく変貌しました。人口減少を招く少子高齢化社会、ITの進化によって急激に進む情報社会、国境を越えて人やモノが行き交うグローバル社会、そこでは、かつての価値観だけでは通用しません。したがって、日本社会も多様性が重んじられ、働き方改革にも本腰が入れられています。

一方、人々の欲求の基本も「モノ」を中心に考えるグッズ・ドミナント・ロジックから、「サービス」を中心に考えるサービス・ドミナント・ロジックへと移行しています。今までのように単に良いものを作れば売れる時代は終わり、企業は常に顧客が求めているものをどのような形（モノやサービス）で提供すれば良いのかを考えなければなりません。つまり、提供すべきは「モノ」ではなく、顧客の期待に応えるための「モノ」と「サービス」の新たな組み合わせ（デザイン）なのです。

そこで、サービス経営学部では、「ホスピタリティ・ツーリズムコース」、「サービス・マネジメントコース」、「グローバル経済コース」、「社会福祉コース」、「健康サービスコース」の5つのコースに分かれ、それぞれ分野で社会の期待に応える研究を進めています。特にサービス産業で活躍していた産業界出身の教員も多く、ホスピタリティ分野の研究をはじめ、経営戦略、マーケティング、組織設計、組織行動、流通システム、企業会計などさまざまな観点からサービス産業全体の発展に寄与し得る研究が進められています。

これら大学における「知」と企業、自治体など産学官をマッチングさせることで、新たな価値を提供していくために作成されたのが、この「研究シーズ集」です。これによって、少しでも本学が地域社会のために役立つことができれば幸いです。

## 健康で生き生きと、 その人らしい幸せな 暮らしを 地域の方々とともに



看護学部 学部長 大賀 明子

サービス経営学部から始まった西武文理大学開設10年にあたる2009年に、埼玉県下3番目の看護学部として生まれた本学部も、気がつけば13年目を迎えます。学部開設当時は埼玉県西部地域では初めての大学看護教育課程でしたので、狭山市をはじめとする地域のみなさまから期待を寄せていただきました。改めて、地域の中に存在し、地域と共に育ってきた学部と言えるでしょう。

看護学部の教員の専門はもちろん看護学ですが、本学部の教員の特徴はそれぞれがホスピタリティを備えた優れた看護の実践家であることです。教員たちには豊かな実践経験を有していますので、COVID-19パンデミックにおいて、学内の感染防止はもちろん、地域の看護職と共に貢献することができました。健康的に生活することを支え、そして病気を抱えていたとしても、その人らしく幸せに暮らしていくために、看護学がどのように役立つことができるのか、保健師として、看護師として、助産師として、それぞれの専門領域に関連した多岐にわたる研究課題を追求しています。

学生たちが、看護学実習経験の中で気づき、感じた疑問を研究課題へと整理していく初学者への支援だけでなく、第一線の看護専門職が、臨床実践活動のなかでぶつかる課題に共感し、研究手法を用いて解決するお手伝いが可能です。学術的な解決に向けた伴走者として、協働・連携ができるはずです。これからの実践に資する基礎研究はもちろん、地域のさまざまな生活の中で、アクションリサーチも含め連携・協働をしたいと思います。生まれ、育ち、働き、暮らすあらゆる世代の人々の健康に寄り添うことのできる看護専門職がここにいます。関心のあるテーマや内容が目にとまりましたら、どうぞお問い合わせください。

## 研究機関としての学部の特徴

# 研究シリーズ

## 2022

## 研究シリーズの見方

6つの研究カテゴリ  
に分類しています

企業・経営支援

経済・社会・地域研究

教育・人材・社会貢献

研究・活動の成果

社会への貢献

社会への貢献

### 経済社会の長期展望(人口とイノベーション)



**岩瀬 忠篤**  
IWASE, Tadaatsu

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

**キーワード**  
生活サービス情報の評価システム  
人口減少抑制戦略と外国人の活用  
超スマート社会と第4次産業革命  
高齢者の地域居住(A.I.P)  
SDGsとエンカル(倫理的)消費  
社会システム産業の推進

**相談に応じられる関連分野**  
●人口・ライフスタイルの変化を踏まえた地域活性化  
●高齢者の地域居住やエンカル(倫理的)消費の促進方策

**プロフィール**  
1982年筑波大学社会学部卒業。同年経済企画庁(現内閣府)に入庁。内閣府大臣官房審議官、財務省財務総合政策研究所次長、国土交通大学校長などを経て2019年7月に退官。2020年4月より現職。シンガポール東南アジア研究所(ISEAS)、千葉大学法経学部にも勤務。

**産業界・地域へのメッセージ**  
持続可能な地域社会を目指して協働させていただきます。

**研究・活動の内容**  
「経済社会の長期展望」は、「人口」と「イノベーション」が鍵となります。「人口」については、第一に出生率の予測です。加えて、「外国人」の動向が重要となってきています。また、「二つの大きな不均衡」(超高齢化と人口の地域分布)に対応した戦略も求められています。私の提言としては、「少子化対策」のさらなる充実と「外国人の純流入」を増加させるための施策の強化の「合わせ技」で、日本人の定常化(サステイナブル化)を目指さないかと考えています。また、不均衡への対応策としては、「高齢者の地域居住」(エイジング・イン・プレイス)の観点からの「ケア」を

含む高齢者サービスの提供システムや外国人を含む地域での「多様な人口」の活用が重要になると考えています。  
「イノベーション」については、アメリカ、中国、ドイツ等のグローバルな環境の中で考えていく必要が重要です。また、日本経済の生産性向上という観点はもちろん重要ですが、地域のレベルでも、評価・数値化の難しい「ホスピタリティ」を含む「サービスの質」の向上に結びつけていくことが必要です。また、エンカル(倫理的)消費と併せて、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に繋がる観点も求められています。

### マーケティング・コミュニケーション



**金澤 良昭**  
KANAZAWA, Yoshiaki

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

**キーワード**  
マーケティング  
マーケティング・コミュニケーション  
広告  
広報  
オウンドメディア

**相談に応じられる関連分野**  
●Webを活用したマーケティングの施策に関する助言

**プロフィール**  
法政大学大学院社会学研究科経営学専攻修士課程修了。家電、IT関連の広告、広報の実務に従事後、大学教授となる。日本マーケティング学会、日本商業学会、組織学会所属。

**産業界・地域へのメッセージ**  
地域の皆様のお役に立てましたら幸いです。

**研究・活動の内容**  
研究分野は、マーケティング・コミュニケーションです。企業は顧客とメディアや人を通してコミュニケーションを行っています。こうした活動をマーケティング・コミュニケーションといえます。内容としては広告、PR、販売促進、人的販売、クチコミなどがあります。  
今や企業経営においてインターネットの活用が必須となっていますが、私もマーケティングにおけるインターネットの効果的な活用についてとても関心を持っています(ちなみにこのような施策の総称を最近ではデジタル・マーケティングといいます)。

オウンドメディア(自社メディア)といわれるブログ/サイトのより効果的な活用のためのコンテンツ開発と評価、そしてソーシャル・ネットワーキング・サービス(LINE、FacebookやYouTube)やメールとの効果的な連携についても探っています。どのような情報を発信し、どのように消費者とコミュニケーションを図るとマーケティング的な成果に結びつくのか、サーチエンジン対応も見据えながら取り組んでおります。現状はサービスを営む自営業のケースを中心に分析をしておりますが、対象を広げ多くの経営者の方の役に立つ実践可能な知見を得ていくことが今後の課題です。

研究に関連する  
キーワードです

研究・活動の内容  
を説明しています

相談に応じられる関連分  
野、略歴や所属学会、産  
業界・地域へのメッセー  
ジをまとめています

# 企業・ 経営支援

## 新製品・サービス開発の原価計算・管理会計



浅石 梨沙  
ASAISHI, Risa

### キーワード

製品・サービス原価計算  
コスト・マネジメント  
原価企画  
利益管理  
アメーバ経営

サービス経営学部  
サービス経営学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 新製品・サービス開発にともなう収益・原価管理
- 中長期利益計画の策定と実行
- 管理会計システムを活用した事業承継の円滑化

### プロフィール

早稲田大学政治経済学部卒、一橋大学大学院商学研究科博士  
後期課程修了、博士（商学）。日本会計研究学会、日本原価  
計算研究学会、日本管理会計学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

地元企業の持続的発展に貢献できれば幸いです。

### 研究・活動の内容

製造・サービス業における原価計算・管理会計を研究分野として、新製品・サービス開発における原価計算・管理会計をメインテーマとした研究をしています。近年では特に、「サービタイゼーション」と呼ばれる製造業のサービス化現象について、ここでの原価計算・管理会計技法の役割を検討しています。日本の製造企業では、新製品開発において、古くから「原価企画」とよばれる原価管理手法が用いられてきました。近年新たに生じてきたサービタイゼーションにも原価企画が活用可能であるか、活用する場合にはどのような工夫が必要であるかなどについて分析を進めています。また、

プライシングを含む収益管理についても関心を寄せています。これによって、単なる「コスト削減」に偏らない利益管理のあり方を追求しています。

このほかにも、主にファミリー企業における事業承継を対象として、事業承継に管理会計が与える影響について研究をしています。京セラ発の管理会計手法である「アメーバ経営」を軸として、管理会計手法の活用による事業承継の円滑化に関して分析を進めています。

## 経済社会の長期展望（人口とイノベーション）



岩瀬 忠篤  
IWASE, Tadaatsu

### キーワード

生活サービス情報の評価システム  
人口減少抑制戦略と外国人の活用  
超スマート社会と第4次産業革命  
高齢者の地域居住 (A.I.P)  
SDGs とエシカル (倫理的) 消費  
社会システム産業の推進

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 人口・ライフスタイルの変化を踏まえた地域活性化
- 高齢者の地域居住やエシカル (倫理的) 消費の促進方策

### プロフィール

1982年筑波大学社会工学類卒業。同年経済企画庁 (現内閣府) に入庁。内閣府大臣官房審議官、財務省財務総合政策研究所次長、国土交通大学校長などを経て2019年7月に退官。2020年4月より現職。シンガポール東南アジア研究所(ISEAS)、千葉大学法経学部にも勤務。

### 産業界・地域へのメッセージ

持続可能な地域社会を目指して協働させていただきます。

### 研究・活動の内容

「経済社会の長期展望」は、「人口」と「イノベーション」が鍵となります。「人口」については、第一に出生率の予測です。加えて、「外国人」の動向が重要となってきています。また、「二つの大きな不均衡」(超高齢化と人口の地域分布)に対応した戦略も求められています。私の提言としては、「少子化対策」のさらなる充実と「外国人の純流入」を増加させるための施策の強化の「合わせ技」で、日本人口の定常化(サステナブル化)を目指せないかと考えています。また、不均衡への対応策としては、「高齢者の地域居住」(エイジング・イン・プレイス)の観点からの「ケア」を

含む高齢者サービスの提供システムや外国人を含む地域での「多様な人口」の活用が重要になると考えています。

「イノベーション」については、アメリカ、中国、ドイツ等のグローバルな環境の中で考えていく必要があります。また、日本経済の生産性向上という観点はもちろん重要ですが、地域のレベルでも、評価・数値化の難しい「ホスピタリティ」を含む「サービスの質」の向上に結びつけていくことが必要です。また、エシカル(倫理的)消費と併せて、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に繋がる観点も求められています。

## マーケティング・コミュニケーション



金澤 良昭  
KANAZAWA, Yoshiaki

### キーワード

マーケティング  
マーケティング・コミュニケーション  
広告  
広報  
オウンドメディア

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- Webを活用したマーケティングの施策に関する助言

### プロフィール

法政大学大学院社会学研究科経営学専攻修士課程修了。家電、IT関係の広告、広報の実務に従事後、大学教員となる。日本マーケティング学会、日本商業学会、組織学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の皆様のお役に立てましたら幸いです。

### 研究・活動の内容

研究分野は、マーケティング・コミュニケーションです。企業は顧客とメディアや人を通してコミュニケーションを行っていますが、こうした活動をマーケティング・コミュニケーションといいます。内容としては広告、PR、販売促進、人的販売、クチコミなどがあります。

今や企業経営においてインターネットの活用が必須となっていますが、私もマーケティングにおけるインターネットの効果的な活用についてとても関心を持っています(ちなみにこのような施策の総称を最近ではデジタル・マーケティングといいます)。

オウンドメディア(自社メディア)といわれるブログ/サイトのより効果的な活用のためのコンテンツ開発と評価、そしてソーシャル・ネットワーキング・サービス(LINE、FacebookやYouTube)やメールとの効果的な連携についても探っています。どのような情報を発信し、どのように消費者とコミュニケーションを図るとマーケティング的な成果に結びつくのか、サーチエンジン対応も見据えながら取り組んでいます。現状はサービスを営む自営業のケースを中心に分析しておりますが、対象を広げ多くの経営者の方の役に立つ実践可能な知見を得ていくことが今後の課題です。

## サービス企業の事業システムとその変革のメカニズム



甘泉 瑞応  
KANSEN, Mizuo

### キーワード

価値共創  
サービス・マネジメント  
サービス・イノベーション  
地域活性化  
ベンチャー企業育成支援

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 経営環境の変化に対応する新しいサービスのデザイン
- イノベーションを起こす人材の育成
- 中小企業の経営支援や事業計画の策定支援

### プロフィール

上智大学法学部卒、富士銀行入行、会津大学大学院博士後期課程単位取得後退学・博士（コンピュータ理工学）、東北大学大学院博士後期課程単位取得後退学。会津大学 SGU 推進室元室長、本学 SIC 前センター長。中小企業診断士。

### 産業界・地域へのメッセージ

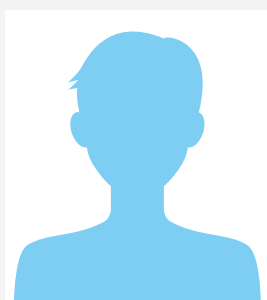
地域におけるサービスのイノベーションや人材育成支援。

### 研究・活動の内容

持続的に成長を遂げているサービス企業がその変革期においてどのようにして事業システムを再構築しているのか、その設計思想を様々なアプローチから分析し、そのメカニズムをモデル化していく研究を行っています。具体的には、いくつかの企業の積極的な取り組みを調査し、その企業が直面する様々な困難を乗り越えるためにどのような意思決定を行ない、どのようなプロセスを経てイノベーションや体質強化をしているのか、そしてその先、どのようなゴールを目指そうとしているのかについての調査研究を行なっています。

モノからコトへのパラダイムシフトが浸透しています。また、IoT・ビッグデータ・AI活用の進化には目覚ましいものがあります。さらに、昨今のコロナ禍において消費者の意識や生活様式も大きく変化しています。このような先行きが読めない不確実性の高い環境において、企業は、脅威を機会に転換すべく、経営資源を見つめ直し、再構築を行い、ステークホルダーとも新たな視点で関係づくりをしていく必要があります。そして、環境に対応する新しいサービスのあり方を考え、デザインし、イノベーションを起こす人材を育成していくこともますます必要だと考えています。

## 実務・コンサルティング経験での知見の理論化研究



黒崎 宗宏  
KUROSAKI, Munehiro

### キーワード

アパレル・小売業等の競争戦略  
サービスマネジメントの仕組み  
経営幹部教育／  
グローバル人材育成

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 戦略策定に関するコンサルティング
- コンサルタント経験を生かした戦略策定・業務革新の助言

### プロフィール

早稲田大学理工学部卒、シカゴ大学経営大学院修了(MBA)、高知工科大学博士後期課程起業家コース修了(学術博士)。西武百貨店、野村総合研究所を経て2015年より本学に奉職。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の企業と連携し共に成長したいと思います。

### 研究・活動の内容

大手小売業での経営企画、野村総合研究所での経営コンサルタントの経験により、企業の経営力の差異に興味を持つ。理論では簡単に説明できても実行するのは簡単ではない。日米タイ台湾のセブンイレブンのコンサルティングでは、同じビジネスモデルでもPDCAの徹底力による差が収益力で大きな違いを生んでいた。また、環境が変われば同じ戦略が通用しなくなることも多い。成功の鍵となる要因を研究している。

### 研究成果に関する著作



韓国語、中国語版も出版された流通業に関する共著



日本を代表する経営者のインタビューも含む共著

## 小売業の競争戦略



小玉 武生  
KODAMA, Takeo

### キーワード

流通

“Amazon effect”

街づくり

人材育成

商品開発

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 小売業・サービス業の出店、運営、商品開発支援（商工会議所）
- 街づくり、地方行政への助言（JR九州、都市計画審議会）
- 人材育成（中小企業大学校、東京都生活文化局等）

### プロフィール

慶應義塾大学卒。西武百貨店に22年間在籍し営業や経営企画に従事。その間流通産業研究所、経済同友会でそれぞれ主任研究員、シニアリサーチフェローとして調査研究にも携わった。

### 産業界・地域へのメッセージ

企業も地域も、飛躍の原点は発想の転換と人づくり。

### 研究・活動の内容

これまでのキャリアでの幅広い経験を活かして、大学教員として様々なテーマに公的な立場で取り組み、課題解決に繋げてきた。具体的には、狭山市の総合計画審議会会長、都市計画審議会委員、まち・ひと・しごと創生有識者会議委員、都市再生整備計画評価委員、さやま市民大学の運営NPOさやま協働ネットの理事等を務め、提言や計画の立案、運営に貢献した。また、シンクタンクでは流通の研究者として電力中央研究所有識者会議ワーキング・グループメンバー、東京都生活文化局流通調査専門アドバイザー、中小企業大学校非常勤講師、経済企画庁流通問題研究会ワーキング・グループ

メンバーを数年に亘って務めた。この他通産省、農林水産省、公正取引委員会、JR九州等多くの機関・企業からの委託調査、受託事業を主査として先導した。最近の研究としては、“Amazon effect”によってGAPやトイザらスといった名立たる大手小売業が店舗閉鎖に追い込まれる中、これからの小売業はどうあるべきか、10年後の流通産業の姿はどうなるのか。もはや在庫管理や店舗運営のノウハウは無用となり、データ・マイニングに長けたものだけが成功するのだろうか。こうした視点から、まさに岐路に立たされている流通産業の変革の透視図について考察しているところである。

## メディアとコミュニケーション、人材とキャリア教育



齊藤 絵理子  
SAITO, Eriko

### キーワード

コミュニケーション

キャリア開発

サービス経営学部  
サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- コミュニケーション
- キャリア開発

### プロフィール

早稲田大学大学院を経て、西武文理大学サービス経営学部准教授。

### 産業界・地域へのメッセージ

キャリア教育を行っています。

### 研究・活動の内容

コミュニケーションとキャリア開発を中心に研究を行っています。

## 顧客経験価値とマーケティング・デザインの研究



高瀬 浩  
TAKASE, Hiroshi

### キーワード

マーケティング戦略  
マーケティング・デザイン  
サービス・マーケティング  
消費者行動

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 企業等における経営戦略、マーケティング戦略の助言  
2007～12年某旅行会社で社外取締役として経営全般の助言  
多くの企業等で経営戦略、マーケティング戦略等を教える

### プロフィール

法政大学大学院社会科学部経営学専攻修士課程修了。日本ダイレクトマーケティング学会理事。著書は、『ステップ式 MBA マーケティング入門』（単著、ダイヤモンド社）等。

### 産業界・地域へのメッセージ

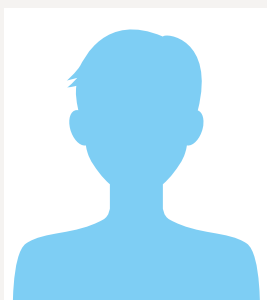
マーケティング・デザインで、地域活性化を支援する

### 研究・活動の内容

サービス・マーケティングの研究分野でも、今大きな波が打ち寄せています。サービス業の多くの現場では、今まで人を介して顧客にサービス価値が提供されていました。だからこそ、サービス提供者である従業員の役割が重視され、企業もインターナル・マーケティングにも重きを置いてきました。その中で、顧客との良好な関係を構築し、相互作用の中で価値共創の考え方も生まれ、定着してきました。しかしながら、最近では人手不足や技術の進歩によって、サービス提供者が人から機械等に代替されることも多く、その関係性は変化しています。そこで、こうした時代の変化に合わせて、

どのように経営資源の最適化と収益の仕組みを考えれば良いのか、そのためには顧客価値を新たに再定義し、顧客との関係性も再考しなければなりません。それは、これまでのマーケティングの考え方をさらに一歩進め、企業と顧客との関係性に留まるのではなく、社会との価値共創へと深化させる必要があるはずで。そうした有効性を実証することで、新たな顧客創造へと繋げていくことが今の研究課題です。そのために、新たな顧客の経験価値に伴うマーケティング・デザインのあり方を研究しています。

## 時空間データの可視化やシミュレーション



野口 佳一  
NOGUCHI, Yoshikazu

### キーワード

時空間データ  
可視化  
シミュレーション

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 時空間データの可視化やシミュレーションに関する相談

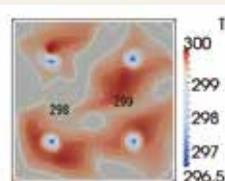
### プロフィール

法政大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。民間企業の研究所を経て現在に至る。計測自動制御学会、情報処理学会等の会員。

### 研究・活動の内容

自然現象や社会現象から計測される時空間データの可視化やシミュレーションを研究しています。一般に最も身近な可視化は、グラフを描くことです。数字の羅列だけではわかりにくいデータをグラフにすることで、より多くの情報や特徴を得られることがあります。こうしたグラフは二次元の平面に描きますが、それを三次元空間に描いたり、コンピュータで実現するのが可視化です。このように様々なデータを分析したり可視化することで、サービスや経営に関わる新たな現象を見つけたり、因果関係を解明したり、有用な情報を得ることを目指しています。

### 教室空調時(天井吹出・壁上部吸収)の温度場・流跡線シミュレーションおよび可視化



温度場(x-z平面, y=1m) (K)のシミュレーションおよび可視化



流跡線(K)のシミュレーションおよび可視化



## ホテル事業の経営と運営の分離、ホテル資産の評価



**馬場 哲也**  
BABA, Tetsuya

### キーワード

ホテル経営  
ホテル運営  
エアライン業界の方向性  
インバウンド

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- ホテル経営・運営に関わる助言

### プロフィール

東京大学卒、コーネル大学ホテル経営PDP修了。日本航空に29年、三井不動産ホテル部門に4年勤務。内外124ホテルに携わる。米国公認会計士合格。著書『エアライン・ビジネス入門』。「ホテル・マネジメント技能検定」検定員。

### 産業界・地域へのメッセージ

エアライン業界・ホテル業界の動向を解説します。

### 研究・活動の内容

ホテルは土地・建物を活用する不動産事業であると同時に、お客様へのホスピタリティを提供するサービス事業との二面性を持ち、不動産事業とサービス事業の総合価値がホテル資産価値を決定付ける特殊性がある。

一般商業不動産とは異なるホテル資産の評価特性とホテル投資・売買における特殊性を分析し今後の方向性を考察する。



観光業の大きな要素であるエアライン業とホテル業の両方に精通しています。

## 中小・ベンチャー企業、イノベーション、CSR・SDGsの研究



**藤野 洋**  
FUJINO, Hiroshi

### キーワード

中小・ベンチャー企業の経営革新  
中小企業政策、産学官連携  
CSR(企業の社会的責任)  
SDGs(持続可能な開発目標)  
コーポレートガバナンス

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 中小企業経営の高度化に関連する事例の紹介
- CSR・SDGsを経営に導入した中小企業に関する講演
- SDGsの展開に関する自治体・公的機関等への助言

### プロフィール

金融機関・シンクタンク等で中小企業の金融・経済動向、CSR経営の研究に従事。一橋大学大学院国際企業戦略研究科博士課程修了、博士(経営法)。日本中小企業学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

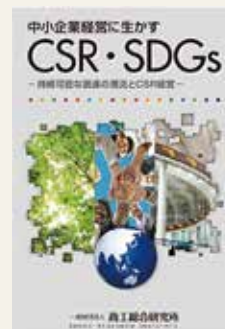
地域・産業界の連携によるSDGsの展開が喫緊の課題です。

### 研究・活動の内容

現在、地域経済とその担い手である中小企業が長期にわたって衰退傾向で推移しています。このため、日本の企業システムについて、主に中小規模の企業(ベンチャー企業を含む)に焦点を当て、企業活動やそのフレームワーク・環境の整備に関する研究を行ってきました。本学では、地域および中小企業の経済的な活性化のために必要な(政策)提言を目指しています。具体的には、これまでの成果を踏まえて、企業統治、CSR・SDGs、アントレプレナーシップ等に関する研究をさらに深めるとともに、ステークホルダーとの連携による地域の活性化にも取り組みたいと考えています。

### 研究成果に基づく図書

世界的にみても少ない中小企業のCSR・SDGsに関する研究を基にした図書





松澤 祐介  
MATSUZAWA, Yusuke

キーワード

- ヨーロッパ
- 中欧 東欧
- 金融政策
- 鉄道政策

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

相談に応じられる関連分野

- EU加盟国（特に中欧、東欧）への（日系）企業進出
- 日本・EU（特に中欧、東欧）の銀行・金融市場・金融政策
- 日本・欧州各国の交通事情、交通政策

プロフィール

慶應義塾大学（経）卒。一橋大学院博士後期課程単位修得退学（修士・経済学）。ウィーン経済大学留学。日本銀行を経て現職。日本金融学会、日本EU学会、比較経済体制学会所属。

産業界・地域へのメッセージ

狭山とヨーロッパを繋ぐ役割が果たせればと思います。

研究・活動の内容

ヨーロッパと日本の「経済体制比較」を研究分野に、銀行制度、通貨統合、鉄道政策等をテーマとしています。ヨーロッパの中でも、ドイツ・オーストリアから東の中欧・東欧を専門とし、最近の研究対象としては、グローバルな金融危機と欧州への影響・政策対応、共通通貨ユーロのチェコ、ポーランド、ハンガリーの導入問題、EUの鉄道政策と各国の旅客鉄道市場自由化（オープンアクセス）、日系企業のチェコ、スロバキアへの進出などを扱っています。この数年「ポピュリズム」勢力の浸透も著しいことから、その経済政策面への影響をこれらのテーマに重ねて分析を進めています。

チェコ通貨「コルナ」と  
ポーランド通貨「ズウォチ」



EU加盟国の義務に反してユーロを導入しない中欧・東欧の国々の政治・経済事情を研究しています。

鉄道の「上下分離」と  
オープンアクセス



EU諸国は同じ線路上での複数の会社の運行や入札による運営委託を通じて鉄道経営の効率化を図っています。

Column 01

## 埼玉県物産観光協会との 包括連携協定を締結しました

本学は一般社団法人 埼玉県物産観光協会と、令和3年10月20日に地域経済の活性化とそれに貢献する人材の育成に向けて、「埼玉県の物産観光振興に関する包括連携協定」を本学内で締結しました。

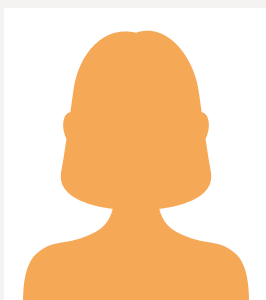
この連携協定は、令和2年度から協会の依頼を受け、「埼玉県の観光経済効果の試算」を本学サービス経営学部中谷教授（当時：准教授）が行ってきたことがきっかけです。

今後は、埼玉県内の物産観光業界における課題解決を通じたPBLや相互の講師派遣による教育・研究でのコラボレーションを進めるなど連携して事業に取り組みます。



# 医療・福祉 専門職支援

## がん終末期ケアに関連したストレスに起因した成長



伊藤 まゆみ  
ITO Mayumi

### キーワード

がん終末期ケア  
ストレスに起因した成長  
意味づけ支援  
レジリエンス  
看護職のキャリア発達

看護学部 看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- がん患者との対話や終末期ケア
- 終末期ケアに携わる看護師のストレスマネジメントと成長
- カウンセリング理論に基づく面接技法やメンタルヘルス支援

### プロフィール

慈恵医大の看護師を経て、筑波大学大学院で修士（カウンセリング）・博士（カウンセリング科学）取得、大学大学院で成人看護学、カウンセリング、がん看護、研究方法を担当

### 産業界・地域へのメッセージ

「がん」とともに生きること、一緒に考えてみましょう。

### 研究・活動の内容

日本では、「がん」のり患率や死亡者数は増加し、「がん」とともに生きる時代が到来しています。私は、臨床では看護師として、看護教育では学生の指導教員として多くのがん患者さんと最期のときを共有してきました。そして、患者さんやご家族との対話を通して、「限られた生の期間を生きることへの支援」の大切さを学びました。一方、研究では、終末期ケアに携わる看護師や看護学生は、そのケアにストレスを感じ、積極的に患者さんに関わることができにくい状況も明らかになりました。

このような研究成果を通して、終末期がん患者さんやご家

族に良いケアを提供するためには、まずは、看護職のメンタルヘルスが保たれていることが大切であると考えています。このため、「ケアする人がケアされ、良い状態で患者さんのケアに向かえるようにする」ことを目指し、終末期ケアに携わる看護師や看護学生のストレスマネジメントやストレスに起因した成長をカウンセリング技法によって支援してきました。今後は終末期がん患者さんやご家族へのインタビューを通して、最期のときの生への意味づけやまとめ方の知見を深め、ご支援に寄与できればと思っています。

## 学生の小児看護の理解と技術習得にむけた教授方法



井上 寛隆  
INOUE, Hirotaka

### キーワード

小児看護  
看護基礎教育

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 小児看護学教育に関する助言
- 子どもの看護に関する助言
- 看護師国家試験に関連した助言

### プロフィール

大学（看護学学士）で看護師、保健師資格取得。大学病院で勤務後、埼玉医科大学短期大学看護学科、2009年より西武文理大学看護学部看護学科で勤務し現在に至る。

### 産業界・地域へのメッセージ

子どもと地域が元気になれるように頑張ります。

### 研究・活動の内容

小児看護基礎教育では、小児看護学実習にむけて必要な準備として用いる課題（子どもの特徴の理解のために家族や親戚へのインタビューなど）について、実習前の実技課題（実習で実践の多いバイタルサイン測定を学生自身で対象を探し、承諾を得て実践してくる）や実技試験方法（先輩学生の事前指導の導入など）についての検討を行っています。また、小児看護学実習時の教育については、学生の自己評価や他者評価の関連性やあり方について検討を行っています。その他、子どもの看護では、子どもを笑顔にできるようにするため、学生がユーモアをどのように捉えているかを知り、学

生にどのようにユーモアを感じ、ユーモアのある看護援助が実践できるようになるかを考えるために、子どもや学生の捉えるユーモア、ユーモアカンファレンス（実習場面でのユーモアを振り返り考える）実践についてなどの検討を行っています。

## 多職種・多部門連携における看護師の役割に関する研究



岡田 信子  
OKADA, Nobuko

### キーワード

多職種・多部門連携  
リフレクション・省察

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 多職種・多部門連携における看護師の役割について

### プロフィール

日本赤十字看護大学大学院修士課程修了。修士（看護学）。東京女子医科大学病院消化器病センターICU勤務、目白大学看護学部 実習指導教員（成人看護学、基礎看護学）、東京衛生病院救急外来・内視鏡室勤務を経て、2018年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

多職種協働による患者支援を研究中です。

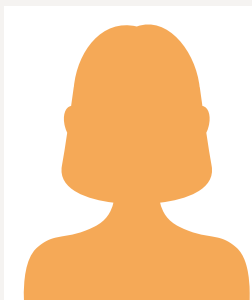
### 研究・活動の内容

日本において専門職間の連携は、「チーム医療」「チームアプローチ」などの用語が用いられてきましたが、近年では「多職種連携」という用語が広く用いられています。多職種連携は、単なる業務分担ではなく、専門性の相互理解に基づく協働・連携を中心に展開されるものと理解しています。

その中で看護師は、生活する患者を支えるという看護本来の役割を踏まえつつ、自身で気づきを得ながら、チーム力をどのように推進していけるのか、をテーマに取り組んでいます。その際、気づきを得る手法の一つとして、リフレクションを学んでいます。

「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療・介護への移行が推進される中で、生活と療養に専門性を発揮できる看護の力を促進するために、今後は、理論・実践・研究の統合的な手法を学んでいきたいと考えています。

## 乳房再建術を受ける患者の看護支援の検討



小野 智恵美  
ONO, Chiemie

### キーワード

がん教育  
乳がん看護  
がん患者就労支援  
化学療法看護

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- がん看護「がん教育」「化学療法看護」に関する事項
- 乳がん看護「乳房自己検診」「集学的治療」に関する事項
- がんサバイバーの「職場復帰」に関する事項

### プロフィール

看護婦免許取得後、帝京大学医学部附属病院にて臨床看護（乳がん看護認定看護師、がん看護専門看護師）継続。埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。2018年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

がんサバイバーへの看護の役割開発と発展に努めたい。

### 研究・活動の内容

乳がんと告知され、乳房全摘術・再建術を受ける患者さん10名に「乳がん診断説明後」「創部マーキング時」「術式決定時」「術前病棟訪問時」「退院指導時」「退院後の外来受診時」の6場面でお話を伺いました。

10名の患者さんは、術前に再建術の情報を得て家族と自身の生活への影響について考えていました。再建術を希望して実施できた患者さんは、術後に乳房の膨らみを見て満足されていました。再建術の希望であるが手術中の診断により再建術から全摘術に変更された患者さんがおられました。この体験をされた患者さんから、辛い気持ちなどお話しをお伺い

させて頂くことができました。

この研究を通して、看護師は乳房再建術を希望する患者さんに意図的に6場面で看護介入を行うことができれば、患者さんが熟慮したうえで術式選択できるよう関わることができること、また再建術を選択したが実施できない場合も、患者さんの辛さ、戸惑いを見逃さず、看護介入に役立てられる可能性があることが分かりました。私は、この他「がん看護」に関連した研究にも取り組んできました。今後も、がんサバイバーとご家族が、より充実した生活を過ごせるよう「看護の役割開発と発展」を目指し研究に取り組んでいきたいと考えています。

## 介護・福祉職員のキャリア形成・成長経験を支援する



影山 優子  
KAGEYAMA, Yuko

### キーワード

福祉介護職のキャリア形成  
福祉・介護人材育成  
成長経験  
業務改善  
学生の地域活動支援

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 福祉介護職員のキャリア形成に関する支援
- 福祉介護事業所の業務改善支援（調査研究実施の助言等）
- 地域活動等に関心を持つ学生とのマッチング支援

### プロフィール

日本社会事業大学卒業後、介護職員を経て同大学院博士前期後期課程修了、博士（社会福祉学）。所属学会：日本認知症ケア学会、日本老年社会科学会、介護福祉学会、介護経営学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の中で面白い仕掛けを作っていきたいです！

### 研究・活動の内容

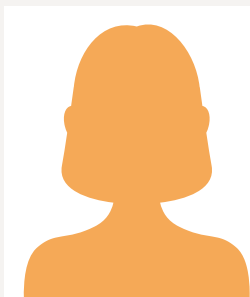
学生時代に高齢者介護の現場に触れる機会があり「介護の仕事はとてもおもしろく、奥の深いものである」と直感し、自らの初職を特別養護老人ホームでの介護職員としてスタートさせました。その後、大学院を経て現在に至るまで、一貫して介護福祉の現場やそこで働く職員に関する研究に取り組んでいます。

これまで行った研究テーマとしては、認知症高齢者に対するまなざしの研究、介護職員の成長経験、現場で活躍する介護リーダーの特性の研究、などがあります。いずれの研究においても現場で働く職員の意識や態度、またそれらの形成過程について着目しています。

最近では教員という職業上、特にキャリアのスタート時点である新卒者がどのような目的やきっかけで就職活動時に福祉介護業界で働くことを選択し、その後どのようなキャリア形成がされているかといったことに強い関心を持っています。

福祉介護職員のキャリアの構築については、キャリアパスの仕組みの導入や経験に応じた処遇改善の実施など様々なされていますが、こうした制度的枠組みの中で外発的に築かれていくキャリアとは別に、仕事に対してやりがいを感じ、経験そのものが成長に結びついていく内発的なキャリア形成のあり方に着目していくことが重要ではないかと考えています。

## 現代に活かすナイチンゲール看護論



神庭 純子  
KAMINIWA, Junko

### キーワード

看護教育・看護倫理  
ナイチンゲール看護論  
公衆衛生看護  
家族看護  
生活習慣病予防

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 生活習慣病予防における地域活動への支援に関わる事項
- 看護専門職者の現任教育（看護倫理等）に関わる事項
- 教育一般及び家族問題に関わる事項

### プロフィール

埼玉大学教育学部卒業、聖隷クリストファー大学看護学部卒業、同大学院修士課程修了 修士（看護学）、筑波大学 博士（学術）。  
主著：初学者のための『看護覚え書』第1～4巻（現代社）。

### 産業界・地域へのメッセージ

健康をキーワードとして地域づくりに貢献していきます。

### 研究・活動の内容

近年の看護教育を取り巻く状況は、少子高齢化の進展、医療技術の高度化、看護を提供する場の多様性等により変化してきており、様々な健康問題を抱える人々のニーズも多様化する中で、より質の高い看護を提供できる専門職者の養成が求められています。そこで、以下のように、看護教育及び地域における母子保健や成人保健に関するテーマで研究に取り組んできています。

まずは、ナイチンゲール看護論を基盤にした看護教育に関する研究と実践です。看護の原点であるナイチンゲール『看護覚え書』を現代社会に活かす視点から論理的に読み解いて

います。研究成果をもとに看護専門職者の現任教育として、看護倫理に関する研修支援をしています。

次に、生活習慣病予防対策に関する研究への取り組みと地域活動の支援です。また、養育期の家族機能の視点から虐待予防のための母親及び父親の育児不安の要因に関する研究に取り組みました。現在は、公衆衛生看護実践能力を育成する教育プログラムの検討に取り組んでいます。

今後も、看護基礎教育のみならず地域の看護専門職者の研修支援や、健康寿命の延伸を目指すための地域づくり活動に専門性を活かして貢献していきたいと考えています。

## 看護職のキャリア開発、看護業務の生産性の向上



小寺 栄子  
KODERA, Eiko

### キーワード

キャリア開発  
一皮むけた経験  
看護業務の生産性

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 看護職者のキャリア開発の基本的な考え方と方策
- 看護ケアシステムの改善
- 看護管理者のコンピテンシーの開発

### プロフィール

大学を卒業後、臨床を経て、New York University 修士課程、東海大学工学研究科博士課程で学ぶ。高知女子大学（現高知県立大学）、静岡県立大学教授を経て2011年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

“強くしなやかに”看護のキャリアを歩む人材の育成を！

### 研究・活動の内容

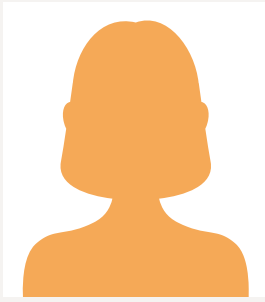
学生時代より、看護職の専門性や存在意義について確証をもって捉えられないもどかしさを感じながら、臨床看護に携わった。その後、大学院に進み、再び看護実践に携わった後に、教員となり26年になるが、この問いかけと追究を今もなお続けている。

そのような問いかけの中で取り組んできた研究としては、看護業務分析による改善策の提案、看護の生産性の概念枠組、チーム医療の中における看護職の役割、看護業務の委譲に関する研究、看護職のキャリア発達の特徴、変革期に於ける中年期看護者のキャリア開発、変革期の看護部門トップマ

ネジャーに求められるコンピテンシー、などである。

特に保健医療環境の急激な変化と多様化に伴い、看護職の専門性についてのパラダイムチェンジが生じつつある現在、社会のニーズの変化を大局的に見極めながら、専門職として主体的に自己研鑽し、専門職として看護の意味と価値を追究しながら自らの専門性を積極的に開発していく力を養うことが求められており、今後も看護職のキャリア開発力の育成に関する研究に取り組みたいと考えている。

## 在宅看護・訪問看護の発展



**小松 妙子**  
KOMATSU, Taeko

### キーワード

在宅看護  
訪問看護  
看護学教育

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 訪問看護師対象の研修支援

### プロフィール

千葉大学看護学部卒、看護学修士（千葉大学大学院）。看護師、保健師。千葉県がんセンター看護師、東京都小平市役所保健師、秀明大学看護学部教授を経て2021年4月より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

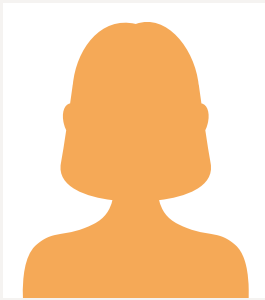
より良い在宅看護・訪問看護をめざし共に歩みましょう。

### 研究・活動の内容

すべての人が望む場所で、人間として生活者として尊重され、目標に向かって生き、また生を終えることを支援する在宅看護への期待と重要性は高まっています。在宅で看護を直接的に担う訪問看護師への活躍もますます期待され、期待に応えるには日々進歩する医療や看護ケアに関する知機や技術をタイムリーに学修・修得できる学習機会が必要です。しかし、知識・技術の修得の機会や体制は十分ではありません。そのため、これまで訪問看護師への学修ニーズ調査に基づき、教育プログラムを開発し、実際に感染予防の研修会を開催し効果検証を行いました。今後は、在宅ターミナルケア実施に

伴う学修ニーズ調査結果を踏まえて必要とされる学修内容を組み入れた研修会を開催し、より良い在宅看護に貢献したいと考えます。

## 基礎看護技術の学習と看護観の形成に関する支援



**佐藤 智子**  
SATO, Tomoko

### キーワード

看護学教育  
看護技術の学習方法  
フィジカルアセスメント技術  
看護とは何か  
その人らしさ

看護学部  
看護学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 正しい健康チェック方法・測定手技に関する助言
- ケア提供者の「その人を捉える」能力の育成

### プロフィール

静岡県立大学看護学部助教、杏林大学保健学部看護学科講師を経て2020年4月から現職。所属学会：日本看護科学学会、日本看護管理学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

日々の生活でも使える看護技術がモットーです。

### 研究・活動の内容

基礎看護技術の学習において「いかにわかりやすく理解し、スムーズに実践につなげられるか」を支援することをテーマに活動しております。

特に、フィジカルアセスメントの基本技術に関する学習支援に取り組んでいます。自分の五感と、少しの測定器具だけで身体的な健康状態を把握できるので、看護の場面だけでなく、日常生活でも役立つ技術となります。一方で、いい加減な技術でも何かしらの「測定結果」が得られてしまうため、誤った判断につながる可能性があります。

よって、正しい技術を学んでもらうために、バイタルサイ

ン測定の原理と方法に関する動画教材の作成や、腹部の観察技術トレーニングのための簡易モデル・サンプル素材の開発への参加を行ってきました。

また、地域住民への講演「五感を使って健康チェック」や、地域の養護教諭への技術研修では、看護技術を看護職以外の方にも共有していただきました。

看護では、身体面だけでなく、対象となる人を全体的に捉えることが必要です。そこで看護学生の患者観・看護師観の形成を支援するための研究に着手したところ です。

## 外国人医療人材への支援プログラムの構築－外国人技能実習制度の活用に向けて－



鈴木 浩美  
SUZUKI, Hiromi

### キーワード

EPA 看護師  
就労実態  
外国人医療人材  
支援プログラム  
レジリエンス

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- EPA看護師の就労実態に関わる事項

### プロフィール

聖隷クリストファー大学看護学研究科 後期博士課程 満期退学、修士（学術）。臨床看護師、看護専門学校の専任講師を経て現在に至る。日本看護学科学会、日本看護管理学会等に所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域の皆様のまなざしの中で学生は成長してまいります。今後とも看護を目指す学生へ支援をお願いいたします。

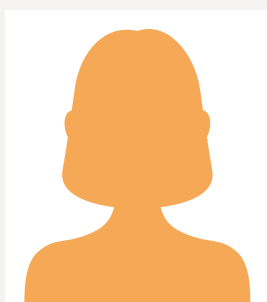
### 研究・活動の内容

経済連携協定（Economic Partnership Agreement 以下 EPAと略す）制度に伴う外国人医療人材の就労には、様々な困難性が立証されている。本研究は、外国人医療人材のレジリエンスに焦点を当て、支援プログラムを構築し、その有用性を検証する。

第1研究は、制度化されて10年を経過したEPA看護師の就労実態を調査した。結果、全108病院のうち、就労者数に変動していない病院は約39%にとどまり、逆にEPA看護師が退職し不在の病院は13.9%で、家族の病気や日本に適応できなかったことによる母国への帰国や、他の病院への移動

が理由であった。特に、1人で就労していた病院での退職割合が高く、EPA看護師は日本で就労継続をすることが困難な状況であることが示唆された。しかし、複数名が就労する病院では定着率が高く、就労継続できる要因の1つには仲間の存在があることも示唆されている。また、産前産後休暇や育児休業を取得しているEPA看護師もあり、日本の医療現場に外国人医療人材が定着する可能性がある。一方で多くの看護管理者がEPA看護師の就労が定着しないことに苦慮していた。今後の調査において、外国人医療人材のレジリエンスを明らかにし、日本に定着できるための支援体制を検討する。

## 周手術期看護に関する研究、がん患者・家族支援の検討



関根 みぎわ  
SEKINE, Migiwa

### キーワード

急性期看護  
周手術期看護  
がん看護  
家族看護

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 周手術期における看護に関わる事項
- 家族への支援に関わる事項
- がん患者と家族に関わる事項

### プロフィール

埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。修士（看護学）。埼玉医科大学国際医療センター勤務を経て現職。日本看護科学学会、日本がん看護学会、聖路加看護学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

手術を受けるがん患者さんとご家族を支えます。

### 研究・活動の内容

がんはすべての人にとって身近な病気です。現在がんに対する標準治療として集学的治療が行われています。その中でも手術療法は健康回復やQOL向上を目的として行われる治療ですが、患者さんのみならず周囲の人々をも巻き込む人生の一大事と言えます。手術後は生活のしづらさや、退院後の生活に対する漠然とした不安、それまでと生活が一変してしまうことへの動揺など、患者さんや家族は様々な困難が生じる可能性があります。頭頸部がんの手術療法として喉頭摘出術が行われています。この術式は、がんの根治性においては優れていますが、失声すなわち発声機能を喪失し、発声・発

語によるコミュニケーションの重要な手段を喪失することとなります。失声によりそれまでと生活が一変してしまう状況を抱え、不安を覚え動揺する患者さんと家族に対し、より質の高い看護ケアの提案が求められています。そこで、手術療法を受ける患者さんと家族に対する看護ケアや、手術後の生活の立て直しに向かう支援のあり方を検討しています。

今後も、患者さんと家族が手術前の時間を大切に過ごせるよう、手術後の生活の立て直しがスムーズにできるような支援をしていきたいと思っております。そして周手術期の患者・家族のケアの構築につなげていきたいと考えています。



## 男性看護師のGSEに影響を及ぼす要因とキャリア形成



大工原 慈仁

DAIKUBARA, Yoshihito

### キーワード

男性看護師  
キャリア形成  
GSE (自己効力感)  
レジリエンス

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 男性看護師のはたらきがいについて
- 男性看護師のキャリア形成について

### プロフィール

大学院にて看護学修士を取得後、独立行政法人国立病院機構東京病院副看護師長を経て2015年より現職。(ICU、内視鏡室、呼吸器内科病棟を経験) 所属学会：日本看護管理学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本健康医学学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

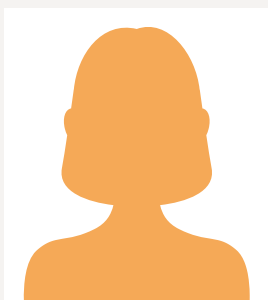
男性看護師に興味のある方、ご相談承ります。

### 研究・活動の内容

近年、男性看護師の数は徐々に増えてきていますが、看護組織においてはまだ少数派であるといえます。男性看護師は特有の体験と葛藤を持つ事が報告されており、男性看護師は特有の経験を通し悩みアイデンティティを模索しながらキャリア形成を行うと考えられています。

そのため、病院に勤務する男性看護師の自己効力感に影響を及ぼす要因とキャリア形成に与える影響に着目し研究を行っています。

## 潜在看護職が望む復職支援研修に関する検討



中澤 美弥

NAKAZAWA, Miya

### キーワード

潜在看護職  
ナースセンター  
復職支援研修  
研修実施率  
研修要望度

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 潜在看護職の復職支援に関する事項

### プロフィール

目白大学看護学研究科看護学専攻修士課程修了。修士(看護学)。看護師。病院、訪問看護ステーション等に勤務。2018年4月から現職。老年・在宅看護学領域 所属学会：日本看護学会・看護管理学会・日本看護科学学会・日本看護学教育学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域包括ケアシステムの中での看護職の役割について。

### 研究・活動の内容

看護職は、病院だけではなく地域や企業など活躍する場が拡大し社会の中で期待されている存在です。しかし看護職不足は解決できていません。「人の役に立ちたい」「病氣と闘う人々の力になりたい」と高い志を持ち看護の道に入ったものの、現実の厳しさなどから道半ばで挫折する看護職も多く存在します。資格取得後、就業し退職したまま現在就業していない看護職を「潜在看護職」とし、現在全国に71万人存在するといわれています。復職に躊躇している理由の一番に、「最新の知識が不足している」という不安を抱えていることが研究の結果わかりました。潜在看護職の復職支援は、看護

職確保の最も有効な方策です。全国で実施されている復職支援研修の実態を調べ、潜在看護職が求めている研修内容と一致しているのかを検証し、今後の研修プログラム構築への一助となるよう検討した結果、「実施率も高く要望度も大きい研修項目：分類A」、「実施率は低いが要望度も大きい研修項目：分類B」、「実施率は高いが要望度は小さい研修項目：分類C」、「実施率も低く要望度も低い研修項目：分類D」に4分類されました。今後は、この結果を参考にして潜在看護職が安心して再び地域の中で活躍できる看護職が増えることを期待し、研修カリキュラムを構築したいと思います。

## 精神看護学実習にて学生が患者の実像を捉えるプロセス



**原田 瞳**  
HARADA, Hitomi

### キーワード

看護教育  
精神看護学  
自己洞察

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 精神科看護に関する事項
- 精神看護学実習指導に関する事項
- 心の健康に関する事項

### プロフィール

看護師。修士（順天堂大学）。精神科勤務を経て2010年より看護教育に従事、2019年より西武文理大学専任講師。日本精神保健看護学会、日本精神障害者リハビリテーション学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

看護師育成への環境提供ありがとうございます。

### 研究・活動の内容

精神看護の実践では、精神科に入院する患者の気持ちや状況をありのままに受け止め、患者のその人らしい生活や、自己決定を見守り支えることが重要である。

しかし、実習で初めて精神科を訪れる学生は、それまで疾患や看護についての学習を経ている精神科に対する恐怖感や強い緊張感を持って実習に臨む学生も少なくない。

そこで精神看護学実習における、精神科に入院する患者を理解しようとする時の学生の感情や思考に着目し、学生が自分自身への洞察を経ながら患者を理解しようとするプロセスを明らかにした。学生が自分自身への気づきや患者を理解し

ようとするプロセスを大切にしながら教育活動を行っている。

また、精神看護の実践においては、言語化されない看護師の行動の中にも、常に精神看護の実践が行われていると考えている。精神看護はコミュニケーションが重要であり、また、自己活用等というキーワードはあるが、患者との関わりの中で生じる行動が、なぜそれが精神看護なのか、という点の多くは明らかになっていない。看護実践のなかに根付いている精神看護をさらに細かく抽出していく事が、今後の精神看護の課題であると考えている。

## 頭の働かせ方を理論的に解き明かして、課題解決を図る



**山田 秀樹**  
YAMADA, Hideki

### キーワード

理論看護学  
看護実践方法論  
死生看護学  
看護の統合  
看護学教育

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 看護保健福祉分野のケアの課題事例分析への助言
- 看護やケアの援助過程の再構成と分析の支援

### プロフィール

東京慈恵会医科大学専任講師、目白大学・大学院准教授等を歴任。社会福祉法人日本キリスト教奉仕団評議員。著書に「ケアとしての死化粧」『基礎看護学 resume 集』等。

### 産業界・地域へのメッセージ

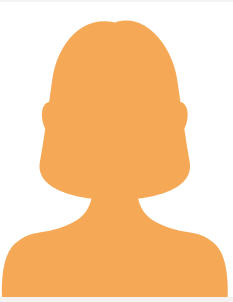
ケアの抱える課題や困難事例を看護学が解決に導きます。

### 研究・活動の内容

よい看護やケアが社会に行き届くには、専門職者が看護に対する科学的な視座を持てることと、同時に温かい心で相手の立場に立った看護を実践できることが不可欠です。グローバル化で社会的基盤が標準化を重視する近年の枠組みの中、マニュアルや標準計画が業務の質・量を底上げする効果は承知しつつも、それ無しに目の前の現象の問題性や行為の選択を判断できないのでは看護にとって本末転倒な状況です。看護の質の保証を個々人のレベルでという社会の要請にこたえるためには、自ら事実を見つめ・考え・実践する専門職者に相応しい頭の働かせ方が、看護学教育にも臨床看護にも適用され

るよう研究が推進されねばなりません。専門職者として確かな視座がもてれば、相手の置かれている状況をとらえその位置に身を置けるはずですし、そうして相手の心身の消耗する状況を感じ取れば、その人を尊重して看護しようと科学的に促進することができます。このような教育や看護実践を可能にする理論的な実証研究として、理論看護学的なアプローチによる臨床看護やケア場面の構造分析や、看護学教育を理論的に支え導く実践等に取り組んでいます。研究の知見は、自らの頭脳で自在に個々の看護現象を見きわめ実践へと展開できる看護職者の育成に活かし検証しています。

## 訪問看護と職業性ストレス、健康行動への関心と変容



横田 美佳  
YOKOTA, Mika

### キーワード

職業性ストレス  
訪問看護ステーション  
健康教育

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 地域における訪問看護サービスに関わる事項
- 健康行動と介護予防支援に関する助言

### プロフィール

目白大学大学院 修士(看護学)。看護師、介護支援専門員。大学病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センターを経て現職。日本看護科学学会、日本地域看護学会等に所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

日々の生活での健康に関心を持てるよう支援いたします。

### 研究・活動の内容

地域における訪問看護と職業性ストレスに関する研究をしています。医療技術の進歩や平均在院日数の短縮化により、高齢者層を中心に医療ケアを必要とする療養者の数は大幅に増加し、訪問看護の果たすべき役割は増大していますが、訪問看護ステーションは小規模な事業所が多く、人員的にも対応が難しい現状があります。地域での療養を継続するには24時間いつでも対応可能な訪問看護体制は大きな安心につながるため、研究では24時間体制の訪問看護師が抱えている職業性ストレスの実態を把握し差異について明らかにするとともに、要因や関連について分析、測定方法

やその対策等も視野に入れていきます。

また、成人市民を対象として健康的なライフスタイルの獲得を目指した研究では、公開講座の参加者の健康に対する意識や行動変容に及ぼす短期的な効果を検証しています。

さらに、医療ケアを必要とする子供たちの増加に関連する地域における医療的ケア児に関わる研究として、看護職の持つ課題を明確にしたうえで、地域性や地域ごとの訪問看護ステーションが抱えている医療的ケア児の実態を分析し、その家族への支援等についても明らかにしていきたいと考えています。

## Column 02

## 防災備蓄、怠りなく

本学では、全ての学生・教職員が3日間生活できるよう飲料水や長期保存食などを災害時用の備蓄飲食料としてキャンパス内の倉庫に保管しています。他にも、寝袋や簡易トイレ、携帯ラジオなど非常時に欠かすことのできない物資も格納されています。

近年、地震や台風、集中豪雨などによる被害が地域を問わず頻発しており、自然災害は今や日常と隣り合わせです。

「備えあれば憂いなし」

いざという時のために、日頃から備えています。



# 教育・スポーツ・ 生涯学習

## スポーツマインドを育成する



**加藤 三彦**  
KATO, Mitsuhiko

### キーワード

コーチング  
フェアプレイ  
コミュニティ  
ボランティア  
ホスピタリティ

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 各種分野におけるコーチングについての事項
- スポーツ分野における指導法についての事項
- 自己向上のためのマインド・スキルについての事項

### プロフィール

筑波大学体育専門学群卒。日本コーチング学会・日本バスケットボール学会に所属。JBA公認A級コーチ、JBAコーチデベロッパー、埼玉県バスケットボール協会理事、男子バスケットボール部監督。

### 産業界・地域へのメッセージ

フェアプレイの心と行動で、人づくり・地域づくり。

### 研究・活動の内容

スポーツ科学領域に位置付けされているコーチングをベースに、フェアプレイの心と行動について、教育・研究・指導を行っています。スポーツは、人間が健康で豊かに生活するためには欠かせない文化です。明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個人の心身の健全な発達、社会におけるリーダーシップ発揮などには、身体的能力だけではなく、しっかりとしたマインドや他者理解力が必要です。

専門分野であるバスケットボール部にも携わり、適切な判断力やチームをまとめる統率力、マネジメント力などのチームビルディングの在り方を追求しています。部活動の指導を通

して、強化を図ると共に、部員の人間力向上に努めています。

地域貢献活動として、「元気バスケットボール教室」を開講し、毎週木曜日に本学のバスケットボール部員と一緒に小・中・高校生の指導を行っています。また、全国のバスケットボール指導者の講習会講師を務めています。

2021年度はコロナ禍の影響で、バスケットボール教室は休講。指導者講習会もオンライン開催を余儀なくされました。2022年度に向けて、バスケットボール教室も再開できるよう、【With コロナ】も考慮した活動の在り方を探求し、【安心・安全】な教室運営に取り組んでいきます。

## 高等教育の哲学と実践方法 — 教養教育、市民性教育、生命倫理教育を中心として —



**金子 章予**  
KANEKO, Akiyo

### キーワード

高等教育 (大学教育)  
教養教育  
市民性教育 (市民リーダーシップ教育)  
生命倫理教育  
コミュニケーション養成教育

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 市民リーダーシップ、コミュニケーション力養成指導 (狭山市「市民講座」講師、さやま市民大学講座講師、等)
- 各種会議・講座運営

### プロフィール

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学、国際機関事務局研究員、韓国中小企業振興公団産業カウンセラー、翻訳：ピシャ「生と死の生理学研究」中川久定・村上陽一郎責任編集『生と死—生命という宇宙』(『十八世紀叢書VII』) 国書刊行会、2020年所収。

### 産業界・地域へのメッセージ

個人と社会全体の幸福の実現のために一緒に力を合わせましょう!

### 研究・活動の内容

私の研究対象は、教育そのものです。とくに、教養教育、市民性教育、生命倫理教育を核として、高等教育(大学教育)の哲学と実践方法を研究しております。

教育学、経済学、心理学、哲学を中心とする学際的な研究教育を背景とし、教育とは何か、学校とは何か、大学とは何か、一人ひとりが幸福になるとともに社会全体が幸福になるための教育とはどのようなものか、ということについて考え、実践し、そしてその成果を社会に還元することに努めております。

### さやま市民大学授業風景



狭山市の皆さんと本学学生とともにグループワークを実施

## 英語授業学研究(学習者の英語運用能力を促進する授業実践の定式化)、4技能の連動性と英語運用能力向上



**鈴木 政浩**  
SUZUKI, Masahiro

### キーワード

英語授業学  
技能連動  
望ましい授業  
音読音声指導  
リメディアル教育

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 英語音声指導
- 英語学習方略指導
- 評価分析

### プロフィール

桜美林大学国際人文社会科学(博士後期課程)単位取得満期退学。日本リメディアル教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会(JACET)他に所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

英語苦手意識克服と自信回復に関する研究を進めます。

### 研究・活動の内容

現在科研費を得て英語授業学研究を進めています。英語授業学研究とは授業の発展過程を枠組として提案し、その枠組の効果を検証する学問です。どのような授業が望ましいのかを授業の楽しさを交えながら枠組として提案し、その効果を検証しています。授業を成立させるための授業者の資質や指導内容をふまえた授業づくり、楽しい授業の要因を意識した授業づくり、異文化間コミュニケーションと自己像形成のための授業づくりと授業を発展させます。さらにその先に4技能の連動性を意識した指導により、英語運用能力を高める道筋を探っています。この望ましい授業の枠組の他、理想FL

(Foreign Language) 自己の考え方をふまえた枠組、語彙指導、音読発音指導における枠組等について提案をしながら、多くの英語教員に、名人の授業を可能にする研究と実践を進めています。

## 現代社会のコミュニケーションと人間関係の研究



瀬沼 文彰  
SENUMA, Fumiaki

### キーワード

コミュニケーション学  
若者研究  
笑いとユーモアの研究  
現代社会論

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 現代社会のコミュニケーションの特徴と実践について
- 笑いとユーモアの日本社会の傾向と実践方法について
- 若者（若手社員）とコミュニケーションギャップを埋める

### プロフィール

東京経済大学コミュニケーション学研究科博士後期課程単位取得満期退学、日本笑い学会理事、『キャラ論』（スタジオセロ）、『ユーモア力の時代』（日本地域社会研究所）。

### 産業界・地域へのメッセージ

コミュニケーション学、笑いの研究で貢献したいです。

### 研究・活動の内容

私の研究は主に2つになります。1つ目は、コミュニケーションに関する研究です。特に、若い世代のコミュニケーションに着目し、彼らのコミュニケーションの特徴や人間関係についてフィールドワークを行っています。具体的には、若者たちが頻繁に使用することばの特徴の整理、そのことばの背後にある意味や社会について調査しています。また、個人の性格や特徴を表すキャラ(キャラクター)のコミュニケーションについて継続的に研究を行っています。これらの研究をベースに、コミュニケーションの世代間ギャップを埋めるための処方箋の提案などで地域や様々な組織に貢献したいです。

2つ目は、笑いとユーモアの研究です。私自身は、大学の教員になる前に、大手芸能プロダクションにて3年間、実践者としてお笑い芸人をしていました。その経験を活かし、様々な場での笑いの作り方について考えています。楽しさが様々な場で求められる現代社会には、笑いの作り方は地域にも組織にもお役に立てることだと思っています。また、フィールドワークを通し、若者たちがどんな人を面白い人と考えているか、笑いの作られ方、メディアとの関係、愛想笑いの意味や社会背景、笑いや笑わせるコミュニケーションが重視される社会背景などについて研究しています。

## 言語教育・言語学習におけるアイデンティティ形成



マルケス ペドロ  
MARQUES, Pedoro

### キーワード

言語教育学  
アイデンティティ  
日本語教育  
英語教育

サービス経営学部  
サービス経営学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 外国語学習方法に関する助言
- コミュニケーションスキルに関する助言
- 国際経験・留学に関する助言

### プロフィール

早稲田大学日本語教育研究科修士課程修了。早稲田大学日本語教育研究科博士後期課程在籍中。2014年より現職。日本語教育及び英語教育を実践し、言語教育をめぐる研究を進めている。

### 研究・活動の内容

言語学習・言語教育が多様化し、学習者がことばを学ぶ理由やその学び方も多様化してきている現代国際社会の中で、どのような人材が必要とされるか。また、そういった国際社会の一員として活動できるには、どのようなことばの力が必要で、どのような社会的能力が必要なのか。このような問題を視野に、ことばの学びの中で学習者が如何にして自分を創っていくのか、そして支援者である教員はどのようなことばの実践を提供すべきかを研究テーマとしている。具体的に言えば、第二言語学習や外国語学習などの様々な言語学習がある中、ことばの学び方、国際社会の中

で活動できる人材の育て方、言語間・物理的な空間・文化間を移動できる人材の育て方、アイデンティティと言語学習の論理的な関係性などが主な研究課題である。この研究課題に取り組むことで、わたくしは学習者の健全な言語教育を目指し、より良い国際社会の構築に貢献しようと思っている。

## ホスピタリティ教育—AI時代に生き残る人とは



宮島 健次

MIYAJIMA, Kenji

### キーワード

人材育成

ホスピタリティ教育

リーダーシップ

サービス経営学部

サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 人材育成の方法、カリキュラム等
- 新人研修や社員研修におけるホスピタリティ教育
- 若い人材との良好な付き合い方

### プロフィール

日本大学大学院文学研究科博士後期課程教育学専攻満期退学。国際学修士。専門は比較教育学（イギリス）。所属学会は日本比較教育学会、日英教育学会等。

### 産業界・地域へのメッセージ

「人は城」。社員を大切に作る組織でありましょう。

### 研究・活動の内容

比較教育学を専門としており、これまでにイギリスのパブリック・スクールなどのエリート教育や大学入試制度について研究してきました。そこで得られた知見は、たとえばリーダーシップや人心掌握、ガバナンスの方法として、大学での教育実践に活かされています。

教育学と聞くと多くの方が「学校の先生のための学問でしょう」と言います。しかし、これは誤解です。教育学とは、人とはどういうものか(心理学)、人としてどうあるべきか(倫理学)を総合した学問であり、人生をどのように生きたいのか(哲学)を追求・実践する学問です。いわば「人間学」

ですから、すべての人に関わる学問ですし、対人関係全般に通用する学問であるともいえるでしょう。私自身、以上のことを常に意識し、本学ではホスピタリティをいかに教育するかといった講義科目に加え、ものの考え方や発想法、パフォーマンス・マネジメントの方法に特に重点を置いて指導しています。

現在は、AI時代における人間教育のあり方全般に興味があります。これからの時代は、これまでの考え方、方式がまったく通用しない時代となるでしょう。ではどうしたらいいのでしょうか。一緒に考えてみませんか。

## Column 03

## 部活 & サークル

本学の多種多様な課外活動団体をご紹介します。スポーツ系から文化系まで学年・学科の区別なく、志や目的を同じくした本学学生がメンバーとなって自主的に活動しています。



### 運動・スポーツ系

指定強化部 男子バスケットボール部 (BUNRIBEARs)  
指定強化部 女子ラクロス部 (Katie's)  
ダンス部 (AORI)  
男女バスケットボールサークル  
バレーボールサークル



フットサルサークル  
バドミントンサークル  
ソングリーダーサークル  
サッカーサークル  
eスポーツサークル



### 文化・芸術系

鉄道研究会  
和太鼓クラブ(鼓月)  
軽音クラブ(PMC)  
ハンドベル・ルチア(Luccia)  
イラストサークル

# 観光・まちづくり

## 占領期日本の復興過程と観光事業・観光旅行との関係



遠藤 理一  
ENDOU, Riichi

### キーワード

異文化コミュニケーション  
近現代史  
占領期  
観光経験  
インバウンド・ツーリズム

サービス経営学部  
サービス経営学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 地域社会における観光産業・観光旅行の歴史
- 地域社会の歴史・文化を活かした観光まちづくり
- インバウンド観光客の観光経験

### プロフィール

大阪大学経済学部卒。北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修士課程・博士課程修了。博士（観光学）。観光学術学会、関東社会学会、日本社会学会など所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

ツーリズムについての研究を活用し、地域に社会還元できれば幸いです。

### 研究・活動の内容

観光に関わる事例から社会や人について考えることに関心があります。占領期（1945-52）の観光を研究の出発点とし、観光事業・観光旅行の歴史を調査研究しつつ、観光経験やコミュニケーションについての考察を進めています。とくに現在研究を進めているのが以下4つのトピックです。

- ①米軍のレクリエーションおよびツーリズム施策について、第一次世界大戦時からベトナム戦争頃までを対象に調査分析し、米軍にとってのツーリズム施策の位置づけを探っています。
- ②占領期日本におけるGHQおよび日本政府による観光産業

に対する施策を調査し、日本社会の平和国家としての復興と観光事業の関係を探っています。

- ③当時における連合軍将兵と日本の人々の移動中の接触を探ることから、占領下の異文化コミュニケーションの様相を調査しています。とくに他者との接触を通じた自己認識の変容がどのように起こるのかを探っています。
- ④現代中国からの旅行者が日本を旅行している際、どのようなコミュニケーションを経験しているのかを調査研究しています。



## 長寿時代を生きる私たちの社会とのつながりと暮らし



菅原 育子  
SUGAWARA, Ikuko

### キーワード

社会関係  
就労と社会参加  
幸福感・ウェルビーイング  
高齢社会

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 壮年・シニア世代の就労や社会参加の促進とその効果
- 超高齢社会の課題を解決する地域活動支援
- ウェルビーイングの研究と実践

### プロフィール

東京大学大学院人文社会系研究科単位取得退学。博士（社会心理学）。東京大学社会科学研究所助教、東京大学高齢社会総合研究機構特任講師等を経て、2021年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

変化する社会の課題発見と解決に、共に取り組みましょう。

### 研究・活動の内容

私は、社会の高齢化、そして人生の長命化によって、人と社会とのつながりに生じる様々な課題や可能性に関心を持って、研究・活動しております。これまで、少子高齢化が進む地域や、高齢者の就労・社会参加促進に関わっている組織・団体などと一緒に、意識調査の実施、まちづくり活動支援等に関わってきました。

私たちは、家族、友人、学校、仕事、地域活動など、様々な形で、日々社会と関わっています。これらの社会関係や社会参加は、私たちが健康で豊かな人生を送る上でとても大きな役割を持っています。近年、何歳になっても生涯現役で働き

社会参加しようという動きがありますが、どんな形で働いたり、社会参加するのが私たちにとって本当に幸せなのでしょう。また、生涯現役で生き生きと暮らし続けられるために、私たち自身はどんな心がけをすればいいのか、どんな技術が役立つのか、また企業や地域社会はどんな環境を整えればいいのか、答えは一つではないでしょう。様々な考え、世代、立場の人が集まって、みんなでつくっていく必要があると考えています。

私たちの暮らしをより良く豊かにするために、みんなで知恵や経験を持ち寄って、解決する活動に関心を持っています。そのような場をつくり、活動が出来たら嬉しいです。

## 地域社会における異文化共在



田辺 忠史  
TANABE, Tadashi

### キーワード

地域社会  
エスニシティ  
宗教  
共在  
雇用慣行・制度

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
教授

### 相談に応じられる関連分野

- 社会調査：調査票調査・聞き取り調査・観察調査など
- 地域における異文化共在：  
世代やエスニシティの異なる人々といかに共在するか

### プロフィール

上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。質的な社会調査を主なツールとしての文化研究。所属学会は「日本社会学会」「日本スキー学会」「スポーツ社会学会」「スポーツ産業学会」。

### 産業界・地域へのメッセージ

構成員が多様化する地域社会の問題を一緒に考えませんか。

### 研究・活動の内容

「意味の体系＝文化」とそうした体系のもとで「わたしが他者（社会）とどう関わるか、どうしてそのような関わり方をするのか、どうしてそんな関わり方しか許されないのか」を考えています。したがって、研究対象は多岐にわたりますが、とくに地域社会における「共在」を考えています。

高齢化の進展、外国人の増加といった地域の人口構造の変化は、地域の変貌を促しているのみならず、地域の魅力を阻害する可能性をも含んでいます。外国人労働者は、現状では、低賃金で不安定な就労に従事しており、このことが地域の産業構造を固定化する可能性を含んでおり、若者にとって

魅力のないものになり地域からの流出の可能性も考えられます。人口減少、高齢化の進展を引き起こすという悪循環やコストの増加も考えられます。

また、外国人労働者の増加は、日常生活における問題、教育の問題、宗教上の問題など地域社会に対して様々な影響を与えます。しかし同時に今まで見られなかった「文化」により「カラフル」で魅力的な地域社会になる可能性があります。エスニシティの異なる他者との「共在」が研究のテーマです。

## ホテルのハード・ソフト・ヒューマン



**富樫 文予**  
TOGASHI, Fumiyo

### キーワード

サービスとホスピタリティ  
ホテルのブランディング  
ホテルの組織と人材育成  
日本のおもてなし、旅館とホテル  
日本のホテル史と帝国ホテル

サービス経営学部  
サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 言葉遣い・電話応対に関する指導
- ホテルのおもてなし、人材育成に関する事項

### プロフィール

1985年 跡見学園女子大学卒業、(株)帝国ホテル入社、2015年ザ・クレストホテル柏総支配人室長、2018年より現職。ホテル・マネジメント技能検定委員、日本国際観光学会所属。

### 産業界・地域へのメッセージ

大学もホテルも、地域とともに存在し発展します。

### 研究・活動の内容

東京五輪招致のプレゼンで、意図的に、印象的に使用された「おもてなし」。サービスという概念しかなかった時代から、日本のサービス産業はホスピタリティ産業へと進化を遂げています。観光立国を目指し2019年の訪日外国人客数は3,000万人に到達。しかしながら、その直後、観光業は多くのホスピタリティ産業同様、新型コロナウイルスとの未曾有の戦いを強いられることになりました。今あらためて、「集う」ことや「旅する」ことが、どれ程私たちの生活に潤いを与えていたかを実感する日々ではないでしょうか？そして必ずや訪れる after コロナに向け、観光業は日本の基幹産業として新

たな発展を遂げるべく「おもてなし大国日本」の真価が問われることになるでしょう。

ホスピタリティ産業の代表とも称されるホテルですが、良いホテルの条件として「ハード」「ソフト」「ヒューマン」の3つが重要とされています。「ハード」とは建物や備品、「ソフト」はサービスの仕組みや組織、「ヒューマン」は気くばりやモチベーションなどです。緻密に組み立てられたホテルの「組織」、それらの仕事に携わる「人材の育成」の考察を軸として、重要な3要素が高品位にバランスよく保たれることで発揮される日本ならではの「おもてなし」が研究テーマです。

## 産学官連携プロジェクトで地域・社会の課題を解決する



**徳田 行延**  
TOKUDA, Koehn

### キーワード

就業力育成の協働学修型体験授業  
産学官連携による地域貢献活動  
Art & Social Engagement

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 産学官連携によるアート&ソーシャル・イベントの実施
- 【実績】狭山市届出挙式（狭山市主催）その他
- サヤマdeシネマ（狭山市共催、東京国際映画祭後援）

### プロフィール

明治大学大学院商学研究科博士後期課程学位取得満期退学。西武文理大学前学長（2016年～2018年）。文部科学省大学生の就業力育成支援事業「経験値からのサービス産業就業力育成」（2011年～2013年）取組責任者。

### 産業界・地域へのメッセージ

アート&ソーシャル・エンゲージメントで未来を創る。

### 研究・活動の内容

21世紀はサービス（経験価値）の時代です。20世紀の所有に基づく交換経済も、効率性や合理性もすでに新しい形に変化してきています。ひとりの天才が社会をリードする時代でもなさそうです。21世紀はすべての人の思いや感動がそれぞれにクリエイティブ志向を持っていきます。多様な人たちとの協働により生まれる共感強く説得力のあるものとなり、社会は人々の創造性によってつくられていくアート作品になっていきます。こうした時代に対応するために、産学官によるプロジェクトにより新しいサービス価値の創造を行い、社会参加におけるホスピタリティの役割を探求しています。

### 学生主催による産学官イベント



「サヤマdeシネマ」狭山市共催  
東京国際映画祭後援



「届け出挙式」狭山市主催  
西武文理大学、ゼクシィ協力

## 産業連関表を用いた地域経済の課題解決



中谷 勇介

NAKATANI, Yusuke

### キーワード

産業連関表  
地域経済  
経済効果  
観光資源

サービス経営学部  
サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 小地域産業連関表の作成
- イベントや政策などによる経済効果の分析

### プロフィール

一橋大学大学院経済学研究科校規博士課程単修得退学。修士(経済学)・一橋大学経済研究所非常勤研究員、神奈川大学経済学部特任講師等を経て本学に着任。2015年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

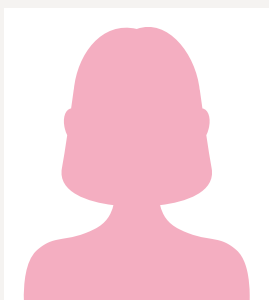
経済学で地域の課題解決をサポートします。

### 研究・活動の内容

現在日本では、少子高齢化による人口減少、地方経済の衰退、国家財政の赤字という大きな危機に直面しています。埼玉県は東京都という大都市に隣接しているという点でアドバンテージがあり、地方都市が抱える問題はまだそれほど顕在化しているとはいえません。とはいえ、人口減少と高齢化の進展は今後徐々に地域経済へと影響を与えていきます。そこで重要になるのが、地域の現状を把握した上で地域の将来像をデザインし、それを実行していくという「地域力」です。この地域力をサポートしていく経済学のツールとなるのが産業連関分析です。産業連関分析は産業連関表を使った経

済分析であり、産業連関表とはレオンチェフが考案した産業間や消費者と産業とのモノやサービスの取引関係(流れ)を表す統計表です。これを市町村単位あるいは隣接する地域単位で作成し、それに基づいて地域経済を分析していくのが最近の私の研究です。市町村単位などの小地域をベースにした産業連関表を用いることで域内の経済構造が明らかになり、将来予測や経済波及効果を分析することが可能になります。2020年から(一社)埼玉県物産観光協会様より「埼玉県における観光の経済効果」に関する研究を委託され経済波及効果(金額、雇用効果、税収効果)の推計を行っています。

## 持続可能な地方行政とまちづくり



服部 映里

HATTORI, Eri

### キーワード

企業立地  
機能導入  
ニュータウン  
集合住宅・マンション管理  
大学と地域との連携

サービス経営学部  
サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 研究関心領域に関わる調査、共同研究、実践的取組

### プロフィール

慶應義塾大学法学部政治学科、東京大学法学部政治学研究科修士(法)課程修了。シンクタンク、デベ・ゼネコンでの調査業務。宅地建物取引主任者(現:宅建士)試験合格。

### 産業界・地域へのメッセージ

相互メリットある関係をめざしチャレンジしましょう!

### 研究・活動の内容

教育と校務の実務が日々の中心で、そこから離れた独立の研究活動となると休止状態です。とはいえ、調査・分析・考察の取組みが社会的に有用かつ個人的に面白くあればよいかという考えで働いています。大学赴任前は行政関係の調査業務が長く、その他、民間企業の市場調査も経験しました。

本来の研究関心としては、ニュータウン等に典型的な、長期にわたる地域の開発計画の管理にあり、取り巻く環境ともども変質していく開発対象を、長期にわたって計画調整しながら管理していくシステムをメインテーマとしています。具体的には、開発地区の関係者との間に、緩やかな目的共有を

もたらずコミュニケーションをいかに恒常的に構築できるかという現実的な方策です。

管理主体は開発の計画期中は事業者である公的機関等が一般的ですが、開発完了後の地区は事業者の権力構造から解放放たれるため、「管理機能をいかに打ち立てるか」という新たな課題が与えられます。その解は、地域特性に応じて様々となるはずですが、管理主体が実質不在なのに、トータルで管理されるべき対象というのは、非常に面白い研究対象です。同様の関心から、ここ数年は「マンション管理」が面白くなってきています。

## 観光インフラとしてのホスピタリティ&マナー教育の普及



**服部 裕美子**  
HATTORI, Yumiko

### キーワード

ホスピタリティ

サービス

おもてなし

インバウンド

マナー教育

プロトコール研修

サービス経営学部

サービス経営学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- インバウンドのおもてなしを考える
- 従業員のマナー&接客研修
- 店舗・従業員のサービス評価

### プロフィール

上智大学大学院文学研究科修士課程卒業(教育学修士)。国際線客室乗務員として日本航空(株)に約10年間勤務。数多くの首相特別便等も担当し、要人接遇の経験を積んだ。日本国際観光学会・日本観光ホスピタリティ教育学会会員。

### 産業界・地域へのメッセージ

グローバル視点でサービスを評価できるのが強みです。

### 研究・活動の内容

日本人が自画自賛する「おもてなし」は、実はひとりよがりの自己満足にすぎない可能性が高いと指摘されています。

アフターコロナに予測される圧倒的な旅行需要の拡大に際し、日本が「目的地」として選ばれるための、あるいはリピーターを増やすための「おもてなし」のノウハウは、とかく「心情的価値」のみに目が向けられがちであることは大きな問題であると捉えています。寧ろサービスにおける「機能的価値」にこそ、より多くの工夫と投資が必要であることを、グローバル・エアラインのサービス実績や評価との比較において考察しています。

### 「ホスピタリティ」の学びは現場から!



エアラインのホスピタリティ…「心情的価値」の最右翼はスタッフの笑顔



「機能的価値」の絶対的基盤は「安全性」と再認識。ゼミ生と羽田工場見学で

## 地域資源を活用した地域振興に関する研究



**望月 政志**  
MOCHIZUKI, Masashi

### キーワード

地域資源

地域振興

農林水産業

フードビジネス

産地ブランド

サービス経営学部

サービス経営学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 農林水産業分野の経営・経済問題
- 「食」や「観光」に関するアンケート調査
- 地域資源を活用した地域振興

### プロフィール

京都大学大学院博士後期課程研究指導認定退学。博士(農学)。専門社会調査士。京都府農林水産技術センター任期付研究員、一橋大学経済研究所専任講師等を経て現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域資源の価値創出に貢献できればと思います。

### 研究・活動の内容

近年、少子高齢化の進行、過疎化問題、経済環境等の変化による地域間格差の拡大など、地方が置かれている状況は厳しく、多彩な地域資源を生かした新しい商品・産業の創出および既存産業の活性化は地域振興を図るうえで重要な課題となっています。そこで、農林水産物をはじめとする「食」や「観光」などに関連する地域資源を活用した地域振興をテーマに、特産品の価格形成要因や地域資源の持続的利用、農・漁業の経営問題、体験型ツーリズム等に関する経営・経済学的研究を行っています。

また、外国での日本産サーモンと他国産サーモンのブラン

ド力の違いや水産物に対する外国人の購買行動を明らかにする研究、あるいはシンガポールにおける日本食レストランの需要とその決定要因を明らかにする研究など、海外における日本固有の地域資源(日本産水産物や日本食文化)に対する需要や購買行動に関する研究も行ってきました。

最近では研究の幅を広げ、これまで統計データの不足からあまり研究されてこなかった第二次世界大戦前後の日本の家計消費に関する研究にも携わっています。

# 子育て・ 障害者支援

企業・経営支援

医療・福祉専門職支援

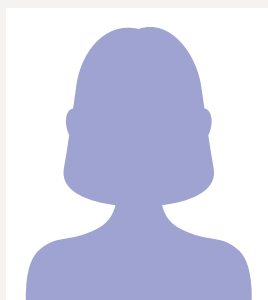
教育・スポーツ・生涯学習

観光・まちづくり

子育て・障害者支援

健康づくり

## 子育て・子育て支援を担う専門職の役割に関する研究



飯塚 ちひろ  
IIZUKA, Chihiro

### キーワード

子育て支援  
地域づくり  
育児不安  
生活経営  
ジェンダー

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 養育者に対する子育て支援に関わる事項
- 乳幼児から高齢者に対する心身の健康づくりに関する事項
- 子育ての公共的側面な社会サービスおよび労働に関する事項

### プロフィール

日本女子大学家政学部家政経済学科卒業。同大学院家政学研究科生活経済専攻修了。のちに看護師、保健師資格を取得し、政令指定都市の行政保健師として勤務。2018年4月から現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

住民の声が地域づくりの根底です。お話を伺います。

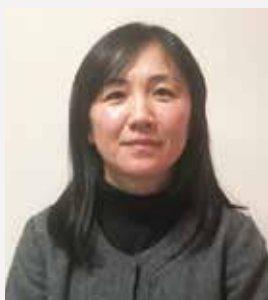
### 研究・活動の内容

地域で生活する生活者の視点から、「暮らしやすさ」を追求していくことがテーマです。様々な生活問題を解決するためには、生活者の視点で「その人の暮らしをみる」ことがとても大切です。地域住民と関わり、生活を整え、共に地域をつくれるのは保健師です。現在は行政保健師としての現場経験を活かし、子どもを育てる地域や家族、子育て・子育て支援を担う専門職や行政のあり方について研究しています。その時々々の現場の声を大切に、また幅広い視点から、人々が暮らしやすいと思える地域づくりを目指しています。

### 最近の主な研究の概要：

- 保育所保育士の専門性確立に向けた研修体系・体制のあり方  
市内の保育所保育士らを対象とした調査データを分析し、保育士の専門性確立体制を総合的に探りました。多様化する保育ニーズに応じるために、子ども達のみならず養育者への支援や地域社会への支援の必要性を明らかにしました。
- 行政保健師が行う母子保健事業のあり方  
母子保健活動における行政保健師の子育て支援活動について、育児不安・育児問題などの要因分析を行い、保健師の支援のあり方について検討しています。

## 精神障がいをもつ人が地域で生活するための包括的な支援について



石川 幸代  
ISHIKAWA, Yukiyo

### キーワード

精神保健  
精神看護  
精神障がいをもつ人  
精神障がいをもつ人の子ども  
精神障がいをもつ人の子育て支援

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 精神障がいをもつ人の地域生活支援について
- 精神障がいをもつ人の子育て支援について

### プロフィール

札幌医科大学大学院保健医療学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師、保健師。精神科病院にて看護師を経た後、大学にて看護学教育に従事。2019年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

全ての人が自分らしく生活できる社会を目指しましょう。

### 研究・活動の内容

これまでに精神科病院内外にて、精神障がいをもつ人が地域で生活するための支援に携わってきました。精神障がいをもつ人が地域の中で一生活者として暮らすためには、本人、家族の努力はもとより、それを支える力が必要です。それは病院からの医療支援のみではなく、地域の保健、福祉の支援、そしてそれらの連携が不可欠です。多くの人の理解と協力が必要となります。精神障がいをもつ人の頑張り、努力が理解され、一緒に協働できる社会を身近なところから目指していきたいと考えております。

また精神疾患の多くは慢性疾患です。病院での治療のみで

完結するのではなく、長くその病気とうまく付き合いながら生活していかななくてはなりません。近年は向精神薬の改良もあって、以前よりも多くの精神障がいをもつ人たちが子どもを生み育てるようになっております。病気を抱え、子育てをすることがとても困難であることは、誰もが予測できることですが、十分な支援を受けられているとはいえないのが現状です。これらの精神障がいもちながら子育てを行っている人たちへの支援、そしてその子どもたちへの支援についても包括的に考えていきたいと思っております。

## 父親と育児に関する研究、産後ケアに関する研究



大賀 明子  
OHGA, Akiko

### キーワード

父親  
育児・育児支援  
出産  
母性  
看護教育

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 子育て・母乳育児に関する相談
- 小学生から大学生を対象にしたセクシュアリティ教育
- 狭山市・さやマーチ「産後ケア」リーフレット監修

### プロフィール

千葉大学看護学部卒、東京大学医学部付属助産婦学校卒、アドバンス助産師、山梨大学（看護学博士）。神奈川県立衛生短大、横浜市大を経て本学教授。母性衛生学会編集・幹事。NPO法人狭山保育サポートの会代表理事。ベトナム障がい者自立支援組織 NPO法人 v-heart 世話人。

### 産業界・地域へのメッセージ

男性から父親となり父親をやり父親になる支援をしたい。

### 研究・活動の内容

父親に関する研究では、男性が父親になっていくプロセスを明らかにすることを目的に、パートナーが妊娠中の男性から子どもが学童期にある男性を対象にインターネット調査の手法を採用して、父親として経験していることや認識に関する調査を行った。1,724名から得た回答により、横断的な結果をつなぎ合わせることで次のことが明らかになった。男性は妊婦健診に同行し、超音波検査で胎児画像を見ることなどで父親になることを実感し、パートナーを思いやることで関係性を深め、誕生による子どもの存在や子どもとの関わりで父親である自分を自覚し、子どもとの相互作用によって父親

である自分を実感していた。男性は、パートナーの妊娠を知り、妊娠期間にパートナーとの関係を深めながら、分娩を経て我が子と実際に出会い、子どもの成長とともに父親としての経験を重ねていくこと、つまり「父親をする」ことで「父親になっていく」。父親としての経験は、子どもに関心を向けることから始まる。その最初の育児行動として、子どもを抱くことには大きな意味があると考えられた。

## 高齢難聴患者を支援するためのピアサポート研修の開発



奥山 陽子  
OKUYAMA, Yoko

### キーワード

高齢難聴者  
難聴対策  
補聴器のフォローアップ  
高齢者ピアサポート  
地域のネットワーク

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

●高齢者看護 ●ホリスティック医療 ●国際看護

### プロフィール

慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院卒業(専修学校)看護師免許取得後、Salem State University, the degree of Bachelor of Science(学位)取得。学校法人花田学園(日本鍼灸治療専門学校)を卒業(鍼師・灸師免許)取得。日本の病院、アメリカの研究室、シンガポールSOS勤務後帰国。西武文理大学看護学部非常勤実習助手を経て、桜美林大学大学院老年学研究科老年学専攻(博士前期課程)修了、老年学(修士)取得。日本医療科学大学保健医療学部看護学科、助教・講師として勤務、2022年4月より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域で生活する高齢難聴者をサポートするネットワーク体制の整備に取り組んでいきましょう。

### 研究・活動の内容

難聴は高齢者の身体的・精神的・社会的機能に影響を及ぼします。軽度の聴力低下でも日常生活動作やうつ・QOLに影響を与え、近年の研究では、難聴と認知機能の低下との関連性も示唆されています。また、補聴器装用は認知機能低下を抑制できる可能性があることが報告されています。日本における補聴器装用者率は海外に比べて低く、日常生活に支障をきたしていることが予測されています。実際に購入しても使用時間が1時間未満であり、使用せずにしまっているケースが多いです。補聴器装用を継続的に使用されるためには、それぞれの個人のニーズにあったきめ細やかな

サポートが必要とされます。耳鼻咽喉科医師との相談、適切な補聴器の選択や操作方法の相談や訪問活動などは、補聴器から離脱することなく継続的に使用でき、聴力だけでなく、うつ予防などの認知機能を含む心理的側面への効果・家族や地域との交流を促進し、社会的側面により良い効果をもたらすと考えられています。今後、地域に在住する高齢難聴者の早期受診の促しや補聴器の特性などのきめ細かい説明・実施(支援)を促進し、視察したデンマークのサポート体制をモデルに地域で生活する高齢難聴者をサポートするネットワーク体制の整備に取り組んでいきたいと考えています。

## 精神科看護師のキャリア形成、オープンダイアログ



笠井 翔太  
KASAI, Shota

### キーワード

精神科看護師  
オープンダイアログ

看護学部  
看護学科 専任講師

### 相談に応じられる関連分野

●精神面の困難に直面した人とのかわりに関する助言  
●精神看護学実習に関する実習指導への助言

### プロフィール

大学にて看護師、保健師、養護教諭1種取得、大学院にて看護学修士を取得後、大学病院精神科看護師を経て、2009年西武文理大学看護学部精神看護学の教員となり、現在に至る。

### 産業界・地域へのメッセージ

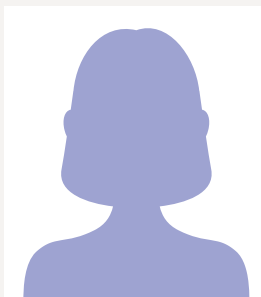
精神面の困難に直面した人たちの一人ひとりの声が尊重され、地域で生活できるよう応援しています。

### 研究・活動の内容

看護系大学において、精神科看護師として働くことに興味を持つ学生が増加傾向にある。しかし、最初から精神科に就職をして良いものかと悩みを持つ学生が多い。そこで、精神科単科の病院に勤務する看護師に精神科以外の経験の有無を聞き、職業的アイデンティティにどのような経験が影響しているのか調査を行った。分析した結果精神科のみの経験のある看護師は、コード数318から5個のカテゴリと13個のサブカテゴリに分類された。カテゴリは患者中心の看護実践、自分自身の役割を見出す、精神科看護のやりがいを感じる、精神科看護師であることの葛藤、社会の目を意識するであっ

た。精神科以外の診療科の経験のある精神科看護師は、コード数215から5個のカテゴリと17個のサブカテゴリに分類された。カテゴリは看護への振り返り、精神科看護を知る、精神科看護を実感する、患者と看護師の援助関係、揺れる看護への思いであった。以上の結果から、精神科以外の診療科の経験のある精神科看護師は身体面重視の看護からの思考の転換による戸惑いから、精神科看護とは何かを考え続けることが、精神科経験のみの精神科看護師は精神科看護を継続していく中でやりがいを見出し、一方で継続していくことへの葛藤が職業的アイデンティティに影響することが示唆された。

## 母乳育児を中心とした歴史的変遷に関する研究



柏木 由美  
KASHIWAGI, Yumi

### キーワード

子育て  
母乳育児

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 子育て・母乳育児に関する相談

### プロフィール

看護師・助産師。病棟勤務を経て、新生児訪問事業などの地域活動を通じ、2010年に開業し、母乳育児相談を中心に100人以上の母子に関わる。2022年放送大学大学院文化科学研究科修士課程修了2022年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

子育てを中心に地域の健康を支援していきたいです。

### 研究・活動の内容

母子を中心とした環境は、日々変化しています。そのような中で助産師として開業し、多くの母子に関わる事ができました。母乳育児の相談については、家庭内のこと、職場のこと、親子関係、近所付き合い、世の中のことなど内容は多種多様でした。母親が色々な事を話す事ができる環境は大切であり、子育てを行う母子にとっては必要不可欠な環境です。しかし現在は他人の家に入ることに敷居が高くなってきています。そこで身近な専門職の関わりは重要視されるようになってきていると感じています。

現代の問題点のヒントを歴史の中に求める研究をしています。

す。おばあちゃんの知恵袋の本質、高齢者の子育て経験などは、現代に形を変えてもつながっていると思っています。

## 障害福祉事業所における人事考課の課題について



川口 真実  
KAWAGUCHI, Mami

### キーワード

人材育成  
障害福祉  
多職種連携  
ケアマネジメント

サービス経営学部  
健康福祉マネジメント学科  
専任講師

### 相談に応じられる関連分野

- 障害児・者に関する支援について  
(個別支援計画や家族への支援等)
- 障害事業所への職員研修

### プロフィール

文京学院大学にて人間学修士を取得重症心身障害児施設や生活介護の支援を経て、介護福祉士や社会福祉士の専門職養成に携わる。社会福祉士、介護福祉士を取得している。

### 産業界・地域へのメッセージ

社会に還元できるよう常に実践したいと思います。

### 研究・活動の内容

障害児・者分野の福祉の中で、自身が社会資源の一つとして、クライアントへの支援や地域社会への還元を重視しながら活動しています。

その一環として、職員研修に携わり、ケアマネジメントの観点において個別支援計画の考え方を実践的に学ぶ研修等を行いました。他にも、事例をとおして共通理解を図ることや、実際のケア場面を例に、ケアに関する考え方について現場の職員と一緒に検討し、より良い支援のあり方を追求することを努めています。

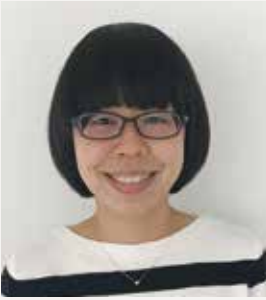
また、社会福祉法人の理事として、実践現場では医療的ケ

ア児に対する支援や、保護者の方々との相談場面等においても実践しながらかわり、その内容を教育へ還元することにも努めております。

さらに、上記研修でつながった他法人とも連携を図り、利用者支援へもつなげることができています。



## 疾患や障がいを抱える子どもとその家族への支援に関する研究



倉石 佳織

KURAIISHI, Kaori

### キーワード

コーエン症候群

遺伝看護

医療的ケア児

就学・就労支援

看護学部

看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 疾患や障がいを抱える子どもと家族へのケア
- 医療的ケアを必要とする子どもの就学支援

### プロフィール

信州大学大学院教育学研究科修了後、高校講師を経て、長野赤十字看護専門学校へ進学し、看護師免許を取得。小児専門病院での勤務、重症心身障害児(者)の看護の経験後、2019年より清泉女学院大学看護学部助手、2021年4月より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

子どもの潜在的な力を引き出すお手伝いができたらと思います。

### 研究・活動の内容

2019年よりNPO法人親子の未来を支える会の会員となり、大学教員の傍らNPOの看護師として、地域で医療的ケアを必要とする子どもの就学支援に携わってきました。また、医療的ケアを必要とする子どもの支援体制の構築が進んでいる大阪府豊中市や熊本県を視察し、先進的な取り組みについても学ぶことができました。これらの経験を活かしながら、疾患や障がいを抱えながら地域で生活する子どもとその家族が直面している課題について、一緒に考えて行きたいと思っています。

2020年からは、科学研究費助成事業（若手研究）として、コーエン症候群の患者と家族の支援を行っています。コーエ

ン症候群は、希少な遺伝性疾患であり、医療を含め社会全体での理解を必要としています。家族会と協力しながら、どのように理解を広めたら良いかを模索中です。また、米国のコーエン症候群の家族会や専門医とも連絡を取りあっているので、海外の情報の発信や日米の家族会の情報交換ができればと考えています。研究では、コーエン症候群の患者・家族が必要としている支援について、今後明らかにしていく予定です。

## 高度実践看護の追究



長坂 桂子

NAGASAKA, Keiko

### キーワード

高度実践看護

周産期メンタルヘルス

妊婦の腰痛

DV 被害者支援

外国人妊産婦支援・文化ケア

看護学部 看護学科

准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 周産期メンタルヘルス
- ライフサイクルとキャリア形成
- 高度実践看護

### プロフィール

千葉大学看護学部卒業、兵庫県立大学大学院看護学研究科修了、博士（看護学）。NIT東日本関東病院等を経て2022年より現職。母性看護専門看護師。日本母性看護学会理事。

### 産業界・地域へのメッセージ

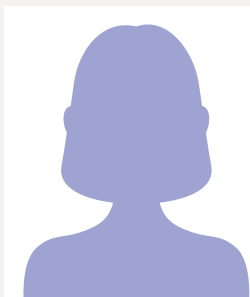
地域の皆様と、安心子育て環境づくりに取り組みたい！

### 研究・活動の内容

臨床では、安心・安全、そしてウェルビーイングの実装に取り組んできました。母性看護専門看護師、博士号をもつ臨床家として、女性やご家族のお困りごとに耳を傾け、組織の中で多職種の方と協力しながら、DV被害者支援、メンタルヘルスケア、外国人ケア、産後ケア、などの体制を整えてきました。地域では、NPO活動を行なっています。

これらの取り組みは、市民の皆様向けの情報発信や、研究成果としても還元しています。埼玉の地で、皆様と一緒に、暮らしをより豊かにする実装研究に取り組みたいです。

## 子育て支援に関する研究、子どもの生活習慣と健康



茂手木 明美  
MOTEGI, Akemi

### キーワード

子どもの健康と生活習慣  
子どもの事故防止  
子どもの虐待防止と家族支援  
発達障害

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 子どもの生活習慣と子育て、病気への対応
- 子どもの成長発達と事故防止
- 子育てをめぐる家族支援

### プロフィール

山梨大学大学院医学工学総合教育部博士課程人間環境医工学修了、医科学博士（山梨大学）、看護学修士（山梨医科大学）。看護師、保育士。

### 産業界・地域へのメッセージ

子どもが健やかに育つための活動に取り組んでいます。

### 研究・活動の内容

育児の現状からみた家族の悩みや課題、職場環境の社会的理解のあり方に対する調査研究を行っています。その研究を基盤とし、子育て期の家族を支えるシステムづくりに関する検討を重ねています。少子化が進み、核家族がさらに増加していくことが予測される今、子育て環境にはさまざまな課題が生じています。子どもとのかかわり・育て方に迷うご家族に対する支援を通して、ご家族へのサポート、加えて児童虐待防止のためにできることについて検討しています。

次に、人の生涯にわたる健康と生活習慣には密接な関係があることから、生活リズム、睡眠、食事、運動など基本的な

生活習慣を確立していく子ども時代の重要性について調べています。近年、我が国のライフスタイルは変容し、大人だけでなく、子どもの生活も大きく変化してきています。子どもが心身ともに健康に成長発達していくことに寄与できるよう、医療・看護のみならず、保育や学校教育の先生方と連携し、子どもの生活に関する研究に取り組んでいます。

また、最近では発達障害やそのグレーゾーンとも考えられるお子さんに関する相談等が増えてきました。そのため、発達障害について周囲や地域の皆さんに正しく理解していただけるための取り組みやご家族への支援についても検討しています。

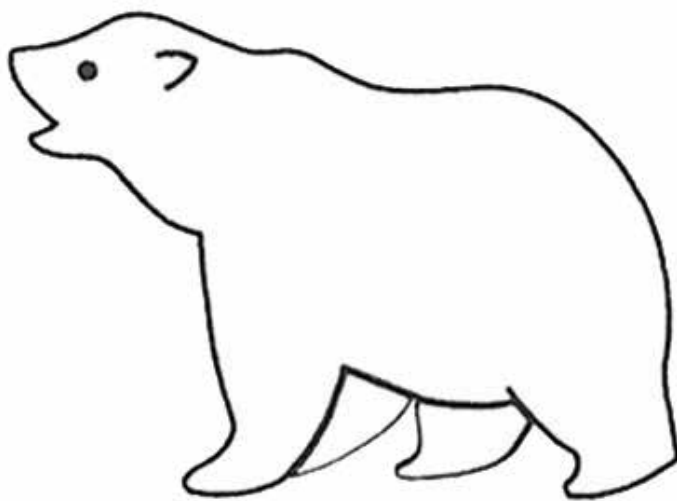


## 学園のシンボルマークは熊

Bear everything before you.

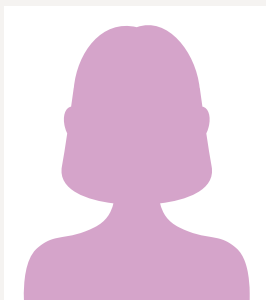
（すべてのことに耐えしのべ）  
BEARには、「熊」の他に「耐える」という意味があります。耐えて、努力して、やり遂げるのが文理の精神です。また、熊のように厳しい冬の季節を堂々と乗り越えてもらいたいという願いも込め、文理佐藤学園のシンボルマークにしています。

このシンボルマークは、同キャンパス内にある文理中学校校舎内に展示しているロダンの助手をつとめたフランソワ・ボンボンが制作した熊がモデルになっています。



# 健康づくり

## 高齢者が病いや障害とともに生きる意味



荒木 美千子  
ARAKI, Michiko

### キーワード

高齢者看護・介護  
リハビリテーション看護  
看護教育  
高齢化  
障害

看護学部  
看護学科 准教授

### 相談に応じられる関連分野

- 高齢者看護・介護に関すること
- 高齢者サービスに関すること
- 障害者支援に関すること

### プロフィール

金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程単位取得満期退学。社会学修士。東京医療保健大学、帝京科学大学、日本福祉大学等を准教授として歴任し、2021年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

高齢者の方を様々な角度から支援させていただきます。

### 研究・活動の内容

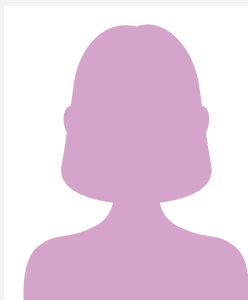
超高齢社会と称される現在を生きる高齢者層の健康と生き方が、これまで以上に問われるようになってきました。そして、高齢者をとりまく保健医療福祉制度や施策が充実しつつある現在、これらの制度もふまえ、多様な場で生活する高齢者とその家族への健康増進、および介護予防からエンドオブライフケアまで、高齢者の尊厳を守り、一貫性のある看護が求められています。

そのような中で、加齢や疾病により障害をきたした高齢者が、どのようにして自分自身の生活を再構築しながら生きていこうとしているのかについて着目し、研究取り組みをしてきました。具体的には、いくつかの高齢障害者の方の活動の場でフィール

ドワークを重ねて、必要な支援の検討を行ってきました。

また、リハビリテーション看護の視点として、看護基礎教育や病院臨床の中での発展の可能性について研究取り組みをしてきました。そして、高齢化が進む中では、企業の高齢者対策の委員や、病院の看護師の方々の研究指導など、幅広く活動してきました。このことを踏まえ、今後も「高齢化」、「障害」をキーワードに、看護基礎教育、病院臨床、地域に向けて、高齢者がよりよく生きるための課題や支援策について、研究取り組みをしていきたいと考えています。

## 労働者のストレスマネジメント、レジリエンス向上



伊藤 千春

ITO, Chiharu

### キーワード

労働者  
ストレスマネジメント  
レジリエンス  
セルフケア  
ヘルスリテラシー

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 地域住民への健康講話
- 企業従業員への健康講話

### プロフィール

臨床経験、行政保健師、産業保健師を経て現職に至る。  
学位：ヒューマン・ケア科学博士（筑波大学）  
資格：看護師免許、保健師免許、養護教諭2種免許  
所属学会：日本産業衛生学会、日本公衆衛生学会。

### 産業界・地域へのメッセージ

地域貢献活動として講演を行い住民の健康増進を支援していきたい。

### 研究・活動の内容

労働者のストレスやレジリエンスに関する研究を行っています。管理職や経営者は一般職に比べて長時間労働であり、精神的な負担や自殺リスクが高いことが示されています。2015年12月よりストレスチェック制度が導入されましたが、従業員50人未満の事業場の実施は努力義務であり、メンタルヘルスの実態がとらえにくい現状にあります。また、経営者はストレスチェックの対象外であり、特徴的なストレスについて本邦における報告も少ないため、近年は中小企業経営者のストレスに注目した研究を行っています。

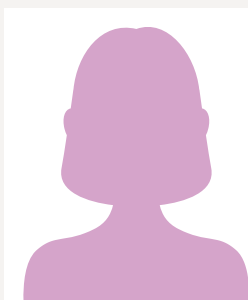
また、逆境や困難から立ち直る力であるレジリエンスと精

神健康度との関係についても深く関心を持っており、今後も労働者のストレスの心理社会的要因に着目していきたいと考えています。

また、健康無関心層の行動変容に影響する要因を検討するために、地域住民のヘルスリテラシーを調査し、現状と課題を明らかにすることに取り組んでいます。

今後も労働者のストレスマネジメント支援や地域住民の健康づくりの一助となる研究を継続していきたいと考えています。

## 脳卒中患者の自主トレーニング実施に関連する要因



井原 緑

IHARA, Midori

### キーワード

成人  
慢性期  
セルフマネジメント  
行動変容  
脳卒中患者

看護学部  
看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 研究計画、分析に関する助言

### プロフィール

北里大学大学院看護学研究科修士課程修了、昭和大学大学院リハビリテーション医学研究科に所属し、博士（医学）を取得。昭和大学保健医療学部、西武文理大学などで、看護教員として勤務。日本看護科学学会、日本看護研究学会など。臨床看護学総論、慢性期看護・ターミナルケア・緩和ケアの部分執筆。

### 産業界・地域へのメッセージ

脳卒中患者さん・ご家族の支援をしていきたいです。

### 研究・活動の内容

脳卒中患者さんは、ある日突然、麻痺が残る等の障害をもつ生活が身近に起こります。昨日までとは違う自分と直面し、戸惑いの中、日々を送る方も多くいます。ある程度、身体機能の回復は望めても、その後の機能の維持には多大なる努力を要します。医療における数ヶ月のフォローの後は、各自が自主的に機能の回復に努め、生活を維持しなくてはならないのが現状です。

これまでの研究結果からも、生涯続くリハビリテーションについて、発病当初のモチベーションを持続していくのが難しい方も多いです。特に身体機能の改善が思うように進ま

なくなったとき、つらさに直面し、行動が停滞する時期があることがわかっています。そのようなときに、どのように支援したらよいかということで、行動に関連する要因として自己効力感に着目し、研究しています。

自己効力感とは、行動の先行要因で自分はそのことができそうだという予測のことです。なんとか、自己効力感を高めつつ、機能維持をしてほしい、人生においてこのような体験をされた方の力になりたいと思い、研究を続けています。

## 健康の視点から誰もが安心して暮らせる地域づくりを考える



尾崎 美恵子

OZAKI, Mieko

### キーワード

地域の健康づくり・介護予防

地域における虐待予防

多職種連携

学生の地域活動支援

看護学部

看護学科 教授

### 相談に応じられる関連分野

- 地域の健康づくり・介護予防に関わる事項

### プロフィール

明星大学大学院人文学研究科修了（教育学修士）。看護師、保健師、精神保健福祉士、介護支援専門員免許取得。行政保健師として子育て支援、健康維持・増進、高齢・障害福祉業務等に従事し、短期大学講師を経て2013年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指します。

### 研究・活動の内容

少子高齢化、核家族化、価値観の多様化やコミュニティの変化により、地域で孤立する人が増加しています。また、あらゆる年代の方、様々な健康レベルにある方への虐待も増加傾向にあり、深刻な社会問題になっています。その中でも子どもに対する虐待は、子どもの心身の成長や人格形成に重大な影響を与えるとともに次世代に引き継がれる危険性があり、親子に関わる専門職者は早期に虐待状況を捉え支援が必要な親の把握をする必要があると考えられています。

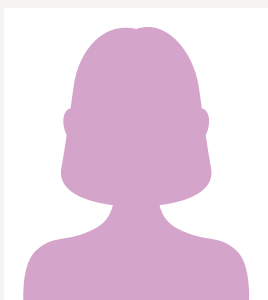
子どもの虐待予防には機動性の高い多職種連携が不可欠と考え、その課題と対策についての研究に取り組んでいます。

また、地域の方々と共に楽しみながらの健康づくり実践を目指し、学生と共に地域のイベントに参加しています。

看護職は、病を抱えて傷ついた人に寄り添い、その人が自分らしく生活していくことを支える職業です。学生は療養生活を送っている方たちとの出会いが多く、地域の方たちとの活動は貴重な財産です。

様々な健康づくり活動を通じて、地域で活躍するシニアの方々、小・中学生等と多世代交流しながらお互いを高めあい、地域の方々の仲間づくりや生きがいづくりに貢献できるよう日々模索しています。

## 「生活世界に導かれたケア」の可能性



齊藤 美恵

SAITO, Mie

### キーワード

看護教育

在宅看護

自宅での看とり

看護学部

看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 在宅におけるホスピス・緩和ケア

### プロフィール

現象学に基盤を置いた生活世界を手がかりに、人が良く生きることを支える看護のあり方について学びつつ研究しています。

### 産業界・地域へのメッセージ

人がより良く生きることを支えるため、皆さまとともに考えつつ具体的な実践を積み重ねられるよう努めて参ります。

### 研究・活動の内容

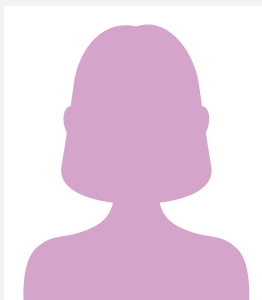
在宅という「生活の場」は、療養者や家族にとって生活の質（QOL）に深く関わるのですが、あまりにも自明であるがゆえ、その意味について十分に考察されてはいないように思われます。そこで私は、現象学的視座に基づく「生活世界」あるいは「世界内存在」という概念を手掛かりに、療養者や家族にとって「生活の場」が持つ意味および、そこに「住まうこと」の意味を考察すると同時に、それらが在宅看護をどのように方向付けるのか明らかにしたいと考えています。

くわえて、スウェーデンの看護学研究者らが提唱する「生

活世界」という概念を用いて、我が国でもケアの基本的な考え方とみなされている「患者中心」について考察しつつ、「患者中心のケア」とは具体的にいかなることなのか明らかにしたいと考えています。

誰もがそれぞれの「生活の場」においてその人を「中心」とするケアを受けることができ、より良い人生をおくれることを、看護教育の場から目指しています。

## 成人期における全人的看護の研究



藤本 千尋  
FUJIMOTO, Chihiro

### キーワード

成人看護  
ライフサイエンス  
アロマセラピー  
ホリスティックナーシング  
スキンケア

看護学部  
看護学科 助教

### 相談に応じられる関連分野

- 看護におけるアロマセラピーの活用について

### プロフィール

横浜市立大学大学院修士課程 看護生命科学分野修了。臨床看護師、看護専門学校の専任教員を経て、2021年より現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

社会で活躍する成人期の健康を維持・増進できるよう、科学的根拠をもったケアの創出に努めていきたい。

### 研究・活動の内容

人間という生命体に対し、身体だけでなく、心理面や社会・自然環境との調和の中で生きる存在として捉え、理解しケアしていく。このホリスティック（全人的）な考え方は看護独自の価値観であり、理論的・実践的に取り組む看護師は医療のみならず、様々な変革のある現在の社会の中で求められています。

最も社会的活動が豊かになる成人期において、健康問題が生じ、生活様式を余儀なくされた場合、対象はその後も続く人生にどうやって向き合っていけばよいのか。これまで通りに喜びや楽しみを享受することができるように身体にも心に

も同時に働きかけていくことはできないだろうか。私は人を自然の一部として捉えていますので、できるだけ日常にあるものや自然産物を活用して治療と並行しながら行えるケアの創出を目標として考えています。

研究テーマの一つであるアロマセラピーは、嗅覚刺激による自律神経の調整と皮膚塗布などからの血液吸収による薬理作用といった二通りの効果を示し、成人期の多様化するライフスタイルに応じて様々な形で活用できるものだと考えます。アロマセラピーを通して、ホリスティックな看護をさらに考察・探求していきたいと考えています。

## 訪問看護師の介護者支援と在宅療養継続の関連



山岡 栄里  
YAMAOKA, Eri

### キーワード

訪問看護師  
介護者  
介護者支援  
在宅療養

看護学部  
看護学科 講師

### 相談に応じられる関連分野

- 在宅療養のサービス利用に関する助言
- 療養生活の方法や工夫についての相談
- 医療情報の活用方法についての相談

### プロフィール

聖路加看護大学大学院看護学研究科修士課程修了。聖路加健康相談ナビスポットのかなびコーディネーター、あすか山訪問看護ステーション、日本訪問看護財団を経て現職。

### 産業界・地域へのメッセージ

誰でも望めば家で過ごせるように共に考えましょう。

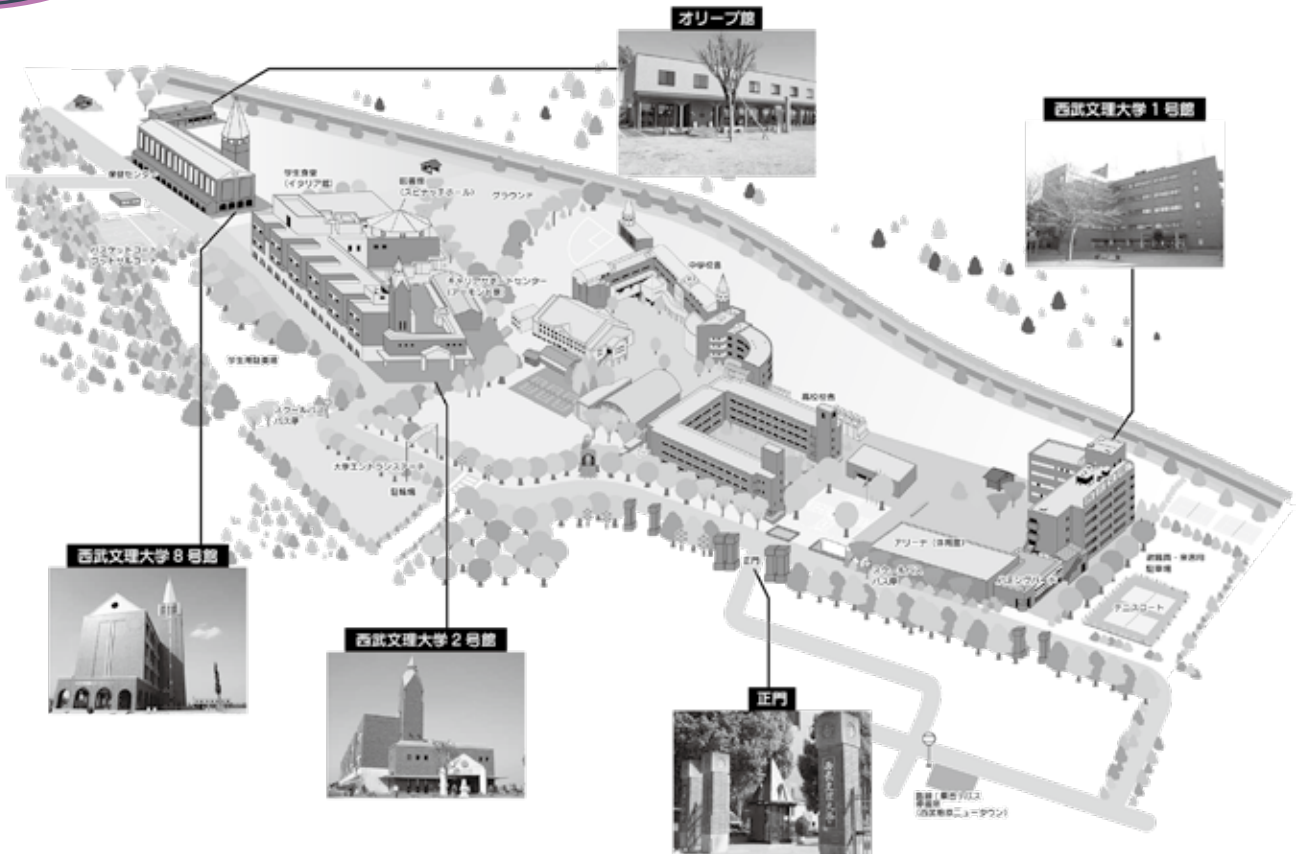
### 研究・活動の内容

私は訪問看護師として、がんなどを患い人生の最終段階にある方、進行性の難病の方、医療的ケアが必要な小児、精神疾患を持ち社会生活を続けている方など、様々な年齢、疾患を抱えながらご自宅で療養生活をされている方々に看護を行ってきました。そこでは療養生活を支える介護者の献身的ともいえる支援を目の当たりにもしました。

現在、地域包括ケアシステムの構築が各地で進められ、在宅療養者も最期まで住み慣れた地域で生活することが可能になりつつあります。私は、これまでの経験から地域包括ケアシステムとともに、介護者が心身ともに健康であることが療

養生活の継続に大変重要と考えています。神経難病で在宅療養をしていた療養者の介護者家族へのインタビュー調査では、療養者の予後への憂慮、家族の発達課題に合わせて生じる苦悩、自分の社会参加への欲求などを抱えながら生活をしていることが浮き彫りになりました。

訪問看護師は療養者や介護者の自宅へ定期的に伺って看護を行います。それは介護者とも信頼関係を築く機会を持ちやすいと言えます。訪問看護師が介護者の心情に関心を寄せ対話を行う支援は介護者の心身の健康を保つこととなり、結果在宅療養の継続につながるのではないかと考えています。



入間川沿いの  
緑豊かなキャンパス



西武新宿線新狭山駅から国道16号線をまたいで西へ約2キロ。入間川河畔に面し緑の樹木に囲まれた学園キャンパスは、南北へ1キロ近くに及びます。大学校舎は、南から順に短大開学時から歴史を積み重ねてきた1号館、高校・中学校舎を経て、大学総合受付がある2号館へと至ります。共にサービス経営学部の中心施設です。その先にそびえるのが看護学部の8号館、通称「川越キャンパス」。授業の合間には、両学部の学生たちが楽しく交流しています。三つの建物にはそれぞれに教員の研究室があり、いつでも学生が相談できる環境を用意しています。



企業・経営支援

医療・福祉専門職支援

教育・スポーツ・生涯学習

観光・まちづくり

子育て・障害者支援

健康づくり

## 産学官連携の推進

西武文理大学は研究機関として、共同研究や研究指導等を通じて知見を提供する取組を行っています。  
また教育機関として、教育プログラムの開発やPBL（問題解決型学習）の実施において産業界や行政のご協力をいただくなど、多彩な産学官連携活動を行っています。

### 1. 締結している協定

- 平成 19 年 産学連携協定：埼玉りそな銀行
- 平成 19 年 産学連携協定：武蔵野銀行
- 平成 23 年 産学連携協定：飯能信用金庫
- 平成 23 年 連携基本協定：狭山市
- 令和 元年 連携基本協定：株式会社ムーミン物語
- 令和 元年 連携基本協定：長野県飯山市・一般社団法人信州いいやま観光局・株式会社フジすまいるファーム
- 令和 3 年 包括連携協定：一般社団法人埼玉県物産観光協会

### 2. 連携活動事例

- 平成27年度 飯能信用金庫「寄付講座」導入  
(取組) サービス経営学部開講科目「アントレプレナーシップ」他
- 平成29年度 狭山市・健康長寿埼玉モデル「おりびい健康マイレージ事業」  
～令和元年度 (取組) 看護学部教員による健康講座や身体測定会の実施及び効果検証への参画
- 平成30年度 埼玉県看護協会第三支部「看護研究の実際」事業  
(取組) 看護学部教員による講義・演習「看護研究の実際・応用編」の実施
- 平成30年度～ 狭山市・NPO法人さやま協働ネット「さやま市民大学」  
(取組) 西武文理大学連携講座として、健康をテーマとした講座の監修・合同授業等
- 令和元年度～ 総合演習I(産学連携PBL) 授業  
(取組) 地元企業や行政などから提示された課題に対する学生提案型の授業を実施
- 令和元年度 狭山市内中小企業へのアンケート  
(取組) 産学官連携をテーマに狭山市内中小企業を対象としたアンケート調査を  
狭山市及び狭山商工会議所の協力により実施
- 令和2年度 サービスラーニング(地域イベント・ボランティア) 授業  
～令和3年度 (取組) 前後期を通じ地域の商店街の活性化策など複数のプロジェクトに分かれて検討
- 令和2年度 サービスイノベーションフォーラム  
「地域における『社会システム産業』を考える～デジタルを活用しての狭山チャレンジ～」  
(取組) 狭山市及び狭山商工会議所の後援により実施
- 令和3年度 サービスイノベーションフォーラム「中小企業にとってのSDGs(持続可能な開発目標)の意義」  
(取組) 狭山市及び狭山商工会議所の後援により実施

### 3. 文部科学省採択事業

- 平成 19-21 年度 研究拠点形成費等補助金  
(産学連携による実践型人材育成事業ーサービス・イノベーション人材ー)
- 平成 21-23 年度 大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)
- 平成 22-23 年度 大学生の就業力育成支援事業
- 平成 24-27 年度 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業



## 共同研究等の推進

### 共同研究

民間機関等の研究者と大学の教職員とが、契約に基づき、対等の立場で共通の課題について研究に取り組み、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。民間等から研究者及び研究経費等を受け入れ、本学の教職員と民間機関等の研究者が、共通の課題について共同・分担して行う研究です。

共同研究によって発生した知的財産権については、双方協議の上、契約書等で取り決めます。

### 受託研究

大学の教職員が外部からの委託を受けて、契約に基づき研究を行いその成果を委託者に報告する制度です。研究に必要な経費は委託者に負担していただきます。受託研究によって発生した知的財産権については、双方協議の上、契約書等で取り決めます。

### 奨学寄附金

本学において、民間企業、団体、個人等から学術研究に要する経費等、教育研究の奨励を目的とする経費に充てるものとして受入れる寄附金です。

## お問い合わせ先

本誌掲載の大学教職員に興味関心のある方、  
大学連携にご興味のある方は下記までお気軽にお問い合わせください。

### 西武文理大学 総務課(研究支援担当)

mail : soumu@bunri-c.ac.jp

TEL : 04-2954-7575

FAX : 04-2954-7511

H P : <https://www.bunri-c.ac.jp/univ/>

### 西武文理大学 サービスイノベーションセンター

mail : sic@bunri-c.ac.jp

TEL・FAX : 04-2909-2229

# INDEX

研究シーズ名前検索

## あ

浅石 梨沙	あさいしりさ	10
荒木 美千子	あらき みちこ	41

## い

飯塚 ちひろ	いいづか ちひろ	35
石川 幸代	いしかわ ゆきよ	36
伊藤 千春	いとうちはる	42
伊藤 まゆみ	いとうまゆみ	17
井上 寛隆	いのうえ ひろたか	18
井原 緑	いはら みどり	42
岩瀬 忠篤	いわせ ただあつ	11

## え

遠藤 理一	えんどうりいち	30
-------	---------	----

## お

大賀 明子	おおが あきこ	36
岡田 信子	おかだ のぶこ	18
奥山 陽子	おくやま ようこ	37
尾崎 美恵子	おざき みえこ	43
小野 智恵美	おの ちえみ	19

## か

影山 優子	かげやま ゆうこ	19
笠井 翔太	かさい しょうた	37
柏木 由美	かしわぎ ゆみ	38
加藤 三彦	かとう みつひこ	26
金澤 良昭	かなざわ よしあき	11
金子 章予	かねこ あきよ	27
神庭 純子	かみにわじゅんこ	20
川口 真実	かわぐちまみ	38
甘泉 瑞応	かんせん みずお	12

## く

倉石 佳織	くらいし かおり	39
黒崎 宗宏	くろさき むねひろ	12

## こ

小玉 武生	こだま たけお	13
小寺 栄子	こでら えいこ	20
小松 妙子	こまつ たえこ	21

## さ

齊藤 絵理子	さいとう えりこ	13
齊藤 美恵	さいとう みえ	43
佐藤 智子	さとう ともこ	21

## す

菅原 育子	すがわら いくこ	31
鈴木 浩美	すずき ひろみ	22
鈴木 政浩	すずき まさひろ	27

## せ

関根 みぎわ	せきね みぎわ	22
瀬沼 文彰	せぬま ふみあき	28

## た

大工原 慈仁	だいくばら よしひと	23
高瀬 浩	たかせ ひろし	14
田辺 忠史	たなべ ただし	31

## と

富樫 文予	とがし ふみよ	32
徳田 行延	とくだ こうえん	32

## な

長坂 桂子	ながさか けいこ	39
-------	----------	----

中澤 美弥	なかざわ みや	23
中谷 勇介	なかたに ゆうすけ	33

## の

野口 佳一	のぐち よしかず	14
-------	----------	----

## は

服部 映里	はっとり えり	33
服部 裕美子	はっとり ゆみこ	34
馬場 哲也	ばば てつや	15
原田 瞳	はらだ ひとみ	24

## ふ

藤野 洋	ふじの ひろし	15
藤本 千尋	ふじもと ちひろ	44

## ま

松澤 祐介	まつざわ ゆうすけ	16
マルクス ペドロ	まるけす ペドロ	28

## み

宮島 健次	みやじま けんじ	29
-------	----------	----

## も

望月 政志	もちづき まさし	34
茂手木 明美	もてぎ あけみ	40

## や

山岡 栄里	やまおか えり	44
山田 秀樹	やまだ ひでき	24

## よ

横田 美佳	よこた みか	25
-------	--------	----

# 西武文理大学 研究シーズ集 2022

2022年6月発行

発行：西武文理大学

連絡先：〒350-1336

埼玉県狭山市柏原新田 311-1

西武文理大学事務局

TEL：04-2954-7575

FAX：04-2954-7511

E-mail：soumu@bunri-c.ac.jp

URL：https://www.bunri-c.ac.jp/univ/

